

令和7年度 年間授業計画

科目(講座名)	現代の国語	2単位	必履修	学年	1年
使用教科書 補助教材 その他	第一学習社：現代の国語 啓隆社：新国語総合ガイド 六訂版 いっずな書店：入試頻出漢字＋現代文重要語彙 TOP 2500 四訂版 筑摩書房：ちくま評論入門 二訂版	教科担当			

1 学習の目標

- (1) 知識・技能の確実な習得として、文章展開をとらえ、語彙や概念を理解する。
- (2) 自らの力で考えをまとめたり、相手が理解できるよう根拠に基づいて論述したりする思考力・判断力・表現力を身につける。
- (3) 主体性を持って他者と協働して学ぶ態度を育成する。
- (4) 設定された状況に応じて、的確に聞き、わかりやすく話すことで自分の考えをさらに深める。
- (5) 漢字・語句の習熟をはかる。

2 授業内容

「入試頻出漢字＋現代文重要語彙」を使って、小テストを行い、語彙力の増強をはかる。教科書を中心に現代文の文章を読解していく。適宜、国語辞典や授業内で配布されるプリントを用いて基礎的事項の定着を図る。出典の文章の文学史、思想史の中の位置づけを「新国語総合ガイド」で確認する。教科書で読んだ文章の関連テーマの文章を「ちくま評論入門」の中から取り上げ、比較するなどして、高次の読解力、思考力を身につける。

3 学習方法

- 予習** 全体を通読し語句の意味調べを行う。「入試頻出漢字＋現代文重要語彙」の指定された範囲の漢字、語彙を覚えてくる。出典の文章の文学史、思想史の中の位置づけを「新国語総合ガイド」で確認する。
- 復習** 授業で解いた問いを再度解き、理解できているか確かめる。文のつながりを意識し、全体を読み直す。教科書で読んだ文章の関連テーマの文章を「ちくま評論入門」の中から取り上げ、比較する。
- 課題** 小テストのための学習。各単元の予習、復習。定期考査出題範囲の自主学習。考査、模擬テストの振り返り。定期的に課される読書課題。

4 学習到達目標と「観点別学習状況の評価」の評価規準

【知識・技能】

- ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。
- ・常用漢字の読み書きができるようにする。
- ・文学作品の歴史的、文化的背景を理解する。

【思考力・判断力・表現力】

- ・文章の種類をふまえて内容や展開を的確に捉える方法を学ぶ。
- ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する方法を学ぶ。
- ・課題に応じて調査する方法を学ぶ。

【主体的に学習に取り組む態度】

- ・作品に対する興味・関心を持ち、積極的に授業や課題に取り組もうとしている。
- ・自己の課題を発見し、粘り強く、問題解決を図ろうとしている。

5 年間予定授業時間

予定時間数	70 時間	1 学期 (26 時間)	2 学期 (28 時間)	3 学期 (16 時間)
-------	-------	---------------	---------------	---------------

6 授業計画

期	月	学習内容	学習到達目標	時数
1 学期	4	理解編 1 「『生きもの』として生きる」 「『本当の自分』幻想」 表現編 「論理的な表現」	① 人間の生き方について、自分に照らして考えを深める。 ② 主張に説得力を持たせるための論の展開について考える。 ③ 主張と理由の関係性について理解する。 ④ 常用漢字を文章の中で活用する。 ⑤ 身近な事物に興味を持ち、そこからさらに思考を深めていく。【年間通じて実施】	13
	5			

1 学 期	6	理解編 2 「水の東西」 「ものとことば」 論理分析 「『間』の感覚」 「日本語は世界をこのように捉える」	① 日本の水文化に見られる特徴について論じる叙述の方法を把握する。 ② 具体と抽象の関係を整理して、筆者が主張する言語の性質を理解する。 ③ 認識や思考を支える言葉の働きを理解する。 ④ 文章の情報を関係づけて内容を解釈する方法を学ぶ。 ① 意見や考えを論述する方法を学ぶ。実社会との関わりを考えるための読書の意義と効用について理解を深める。 ② 比喩、例示、言い換えなどの修辞や、婉曲的な述べ方の効果について検討し、理解する。 ③ 目的に応じて情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を精査したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深める。	13
	7	探求 1 課題の設定 (教科横断的な教材、複数資料を利用) 「本を紹介する」 「表現を検討する」 「発想を広げて課題を見つける」 「問いを作り、意見をまとめる」		
2 学 期	8	理解編 3 「無彩の色」 「『文化』としての科学」 表現編 「スピーチで自分を伝える」 論理分析 「『私作り』とプライバシー」 「A I は哲学できるか」	① ネズミ色のイメージをマイナスからプラスに転じる論展開と、筆者が論拠としてあげる事例を把握する。 ② 筆者が主張する科学と技術の違いを対比的に整理し、現状における科学と技術の関係を理解する。 ③ 自分の意見を大勢の聞き手にわかりやすく伝えるスピーチの方法を理解し、実践する。 ④ 文章の効果的な接続の仕方を理解する。	13
	9			
	10	理解編 4 「現代の操作『世論調査』」 「フェアな競争」	① 情報操作の具体例を通して筆者が提起する課題を理解し、メディア社会に生きる者として問題意識をもつ。	15
	11	論理分析 「デザインの本意」	② 筆者が自説を述べるための論の進め方を捉え、「社会的共通資本」と「フェアな競争」との関係を押さえる。 ③ 比喩や言い換えなどの修辞を理解する。 ④ 論理の展開を捉え、要旨を把握する方法を学ぶ。	
	12	探求 2 情報の収集 (教科横断的な教材、複数資料を利用) 「メディアを適切に使い分けて情報を集める」 「調べた情報をまとめる」 探求 2 情報の収集 (教科横断的な教材、複数資料を利用) 「メディアを適切に使い分けて情報を集める」 「調べた情報をまとめる」	① 目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して、文章内の情報を関係づけて内容を精査する方法を学ぶ。 ② 個別の情報と一般化された情報との関係について理解する。 ③ 情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使う。	
3 学 期	1	解編 5 「不均等な時間」	① 対比の構造を手がかりとして、近代化と時間の合理性との関係を理解する。 ② 「ロビンソン・クルーソー」を例として取り上げた筆者の意図を理解したうえで、主張を把握する。 ③ 情報を大勢の聞き手にわかりやすく説明するプレゼンテーションの方法を理解し、実践する。	16
	2	「ロビンソン的人間と自然」		
	3	表現編 「理想の修学旅行をプレゼンする」 論理分析 「『動機の話彙論』という視点」		

7 学習者へのメッセージなど

現代文を読む力はあくまで教養のために必要であり、教養として大切だからこそ入試にもこれが重要な科目になっている。著名人や知識の豊富な人物の文章を読むことは単純に楽しいことであり、さらには自分自身の知見を広めるための素晴らしい材料ともなり得る。様々な著者の多角的な主張と深い考え方に触れて自己のものの見方、考え方をより良い方向へ導くきっかけとしてほしい。

令和7年度 年間授業計画

科目(講座名)	言語文化	3単位	必修修	学年	1年
使用教科書 補助教材 その他	第一学習社:現代の国語 言語文化 啓隆社: 新国語総合ガイド 六訂版 数研出版:体系古典文法(九訂版) 体系古典文法学習ノート(三訂版) 桐原書店:漢文必携(五訂版) 漢文必携チェックノート(五訂版) いづな書店:わかる・読める・解ける Key&Point 古文単語330四訂版 :プロGRESS古典総演習基本編(三訂版)	教科担当			

1 学習の目標

- (1) 古典や近代以降の文学的文章に親しみ、言語文化に対する関心を深める。
- (2) 用言・助動詞・敬語の文法基礎事項と基本古語を理解習得し、古文解釈ができるようにする。
- (3) 漢文の基本構造や句法を理解し、翻訳文化として根付いた漢文訓読ができるようにする。

2 授業内容

教科書を中心に古文・漢文・近代の文章を読解していく。適宜、「古文単語 330」「体系古典文法」「同学習ノート」「漢文必携」「漢文必携チェックノート」等を用いて基礎的事項の定着を図る。出典の文章の文学史的位置づけを「新国語総合ガイド」で確認する。また、「プロGRESS古典総演習基本編」を用いて古文、漢文の演習量を増やす。

3 学習方法

- 予習** 小テストになっている「古文単語 330」「体系古典文法」「同学習ノート」「漢文必携」「漢文必携チェックノート」の範囲をやってくる。古文は本文を写し、語句の意味を調べ、脚注の語句の意味を利用し、口語(現代語)訳する。漢文は、書き下し文を作り重要な句形や語を調べ、口語(現代語)訳する。
- 復習** 古文も漢文も、繰り返し音読する。これが言語学習の基本となる。
口語訳のために重要な文法事項を反復・復習して暗記する。重要な句形や語を反復学習して暗記する。出典の文章の文学史的位置づけを「新国語総合ガイド」で確認する。
- 課題** 小テストのための学習。各単元の予習、復習。定期考査出題範囲の自主学習。考査、模擬テストの振り返り。「プロGRESS古典総演習基本編」を用いて、古文漢文の演習を行う。

4 学習到達目標と「観点別学習状況の評価」の評価規準

【知識・技能】

- ・ 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。
- ・ 作品の歴史的、文化的背景を理解する。
- ・ 文語の決まりを理解する。
- ・ 訓読の決まりを理解する。

【思考力・判断力・表現力等】

- ・ 文章の種類をふまえて内容や展開を的確に捉える方法を学ぶ。
- ・ 作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する方法を学ぶ。
- ・ 課題に応じて調査する方法を学ぶ。

【主体的に学習に取り組む態度】

- ・ 作品に対する興味・関心を持ち、積極的に授業や課題に取り組もうとしている。
- ・ 自己の課題を発見し、粘り強く、問題解決を図ろうとしている。

5 年間予定授業時間

予定時間数	105 時間	1 学期 (39 時間)	2 学期 (42 時間)	3 学期 (24 時間)
-------	--------	---------------	---------------	---------------

6 授業計画

期	月	学習内容	学習到達目標	時数
1 学期	4	小説「羅生門」他	1複数の小説を読み比べる。	19
		宇治拾遺物語「児のそら寝」	① 歴史的仮名遣いを理解し、古文に親しむ。	
	5	「絵仏師良秀」	② 品詞の分類の理解。	
		古文読解の基本	③ 動詞(活用形・活用の種類)の習得。	
			④ 重要語句について、辞書を引きながら確認する力の習得。	

		訓読に親しむ(一)(二)(三) 故事成語「漁夫の利」	① 訓読の決まりを理解する。(語順／置き字) ② 句法(否定／仮定)の理解、習得。 ③ 繰り返して音読し漢文の口調に慣れ親しむ。 ④ 故事成語の成り立ちに触れ、登場するもののやりとりのおもしろさを読み取る。	
	6 7	小説「羅生門」他 伊勢物語「芥川」「東下り」 故事成語「漁夫の利」 「狐借虎威」 「蛇足」	1複数の小説を読み比べる。 ① 動詞・形容詞・形容動詞の習得。 ② 物語の背景にあるさまざまな風俗や習慣、ものとの見え方を考える。 ③ 歌物語の特徴を理解し、「みやび」の精神が平安時代の文学を支えるものであったことに触れ、古文の世界に対する理解を深める。 ④ 和歌の修辞技巧について理解する。 ① 訓読の基本(語順・置き字・再読文字)の習得。 ② 返り点と送り仮名のきまりに従い、訓点を施すことができるよう、書き下し文を理解。 ③ 句法(否定／疑問・反語/使役)の理解、習得。 ④ 繰り返して音読し、漢文の口調に慣れ親しむ。 ⑤ 故事成語の成り立ちに触れ、登場するもののやりとりのおもしろさを読み取る。	20
2 学 期	8 9	小説「夢十夜」 土佐日記「門出」 「帰京」 故事成語「完璧」 「先從隗始」	1作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉える。 ① 用言の完成。 ② 主な助動詞(打消・過去・完了・推量・打消推量・断定)の理解、習得。 ③ 助動詞(受身・尊敬・自発・可能・伝聞・推定)の理解、習得。 ④ 最初の日記文学を読んで記録としての日記とは異なる表現方法と執筆意図を読み解く。 ① 句法(使役/抑揚/比較/反語)の理解、習得。 ② 再読文字の理解、習得。 ③ 戦国時代の時代背景を学習し、今後の漢文学習に必要な背景知識を養う。 ④ 長めの文章を読解し漢文の読み方を確認する。	20
	10 11 12	枕草子「九月ばかり」 徒然草「丹波に出雲といふ所あり」 唐詩の世「江雪」「江南春」「月夜」「八月十五日夜禁中 独直対月憶元九」「黃鶴楼送孟浩然之広陵」	① 助動詞(受身・尊敬・自発・可能・伝聞・推定)の理解、習得。 ② 自由に記述された随筆を読んで当時の人々の生活感覚や興味の対象を知り、ものの見方・考え方を考える。 ③ 思索的な随筆を読んで、作者の批判的精神が提示する事柄を具体的に読み解く。 ① 漢詩のきまりの理解。重要語・句法(疑問／限定)・対句表現の理解、習得。	22
	1 2 3	小説「城の崎にて」 平家物語「木曾の最期」 文語助動詞・敬語の基本 文章「離魂記」	1生と死を「両極ではなかった。」と捉える考え方に対して、各自の意見を文章にまとめて話し合う。 ① 助動詞(比況)の理解、習得。 ② 音便形と敬語法の理解。 ③ この時代に台頭してきた武士の理想的な生き方・死に方について理解する。 ④ 古典特有の世界観を理解し、千年以上前に作られた物語が現代まで継承されていることを知る。 ⑤ 敬語の基礎(敬語の種類、敬意の方向、最高敬語)と、副詞の呼応について理解を深める。 ① 重要語・句法(限定/全部否定)の理解、習得。 ② 長文の読みになれるとともに唐代伝奇小説のおもしろさを味わう。	24

7 学習者へのメッセージなど

言語文化を学ぶことは、現代に生きる私たち自身のなりたちを学ぶことです。言語は思考・文化をかたちづくれます。現代につながる古典の世界に、広く興味・関心を持って学習に取り組んで欲しいと考えています。

具体的に古典を読解する力を養うためには、まずは何度も読むことです。繰り返して音読することによって、古典のリズムを身に付けることができます。そのうえで、重要な文法事項を押さえ、自分自身で口語訳する。この繰り返しによって古典読解の力を養うことができます。

令和7年度 年間授業計画

科目(講座名)	地理総合	2単位	必履修	学年	1年・3保
使用教科書 補助教材 その他	教科書 「地理総合 世界に学び地域へつなぐ」 二宮書店 補助教材 「標準高等地図」 帝国書院 「新詳地理資料 COMPLETE」 帝国書院	教科担当			

1 学習の目標

【知識及び技能】	地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめることができる。
【思考力、判断力、表現力等】	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互作用、地域などに着目して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて議論したりすることができる。
【学びに向かう力、人間性等】	地理に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追及、解決しようとするすることができる。

2 授業内容

単元1 地球儀と地図の活用 単元2 国家とその領域 単元3 国内や国家間の結びつき 単元4 GISの活用 単元5 地形と生活文化 地域の防災について 単元6 気候と生活文化 自然災害 単元7 産業と生活文化 単元8 世界各地の生活文化 単元9 地球的課題と国際協力 単元10 生活圏の諸課題と地域調査

3 学習方法

予習 教科書および資料集の該当箇所を読み、授業内での理解に向けた準備を行う 復習 使用したプリントを見直し、語句の意味等で理解の不十分な点について教材を用いて確認する 課題 プリント内の記述や振り返り等を提出する

4 学習到達目標と「観点別学習状況の評価」の評価規準

【知識・技能】 地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめることができる。
【思考力・判断力・表現力等】 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互作用、地域などに着目して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて議論したりすることができる。
【主体的に学習に取り組む態度】 地理に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追及、解決しようとするすることができる。

5 年間予定授業時間

予定時間数	時間	1 学期 (25 時間)	2 学期 (30 時間)	3 学期 (15 時間)
-------	----	---------------	--------------	---------------

6 授業計画

期	月	学習内容	学習内容	学習到達目標	時数
1 学期	4	地球儀と地図の活用	地球上での位置, 太陽高度の変化, 緯度経度のしくみ, 時差の計算についての理解	地球上での位置, 太陽高度の変化, 緯度経度のしくみ, 時差の計算について理解できたか	3
		国家とその領域	国家の領域に関する知識を身につけ, 日本の領土問題について歴史的背景と空間的広がりを理解	国家の領域に関する知識を身につけ, 日本の領土問題について歴史的背景と空間的広がりを理解できたか	3
	5	国内や国家間の結びつき	現代社会では国際機関や国家結合のほか, 交通・通信・物流・観光などさまざまな分野における結びつきが強まっていることへの理解	現代社会では国際機関や国家結合のほか, 交通・通信・物流・観光などさまざまな分野における結びつきが強まっていることを理解できたか	2
		GIS の活用	身の回りにおける地理情報システム (GIS) の活用例と利用法への理解	身の回りにおける地理情報システム (GIS) の活用例と利用法を理解できたか	4
	6	地形と生活文化	世界の地形をプレートテクトニクスと関連づけ, 世界の地形配置と比較しながら考察	世界の地形をプレートテクトニクスと関連づけ, 世界の地形配置と比較しながら考察できたか	7
	7	身近な地域の防災	身近な地域で将来起こりうる地震の被害について理解	身近な地域で将来起こりうる地震の被害について理解し, その対策について意欲的に探究できたか	6
2 学期	9	気候と生活文化 自然災害	大気の大循環と海洋に起因した大気のしくみを理解	大気の大循環と海洋に起因した大気のしくみを理解できたか	3
			気候と世界各地の自然災害との関連性についての理解	温図や写真の判読を通じて, 世界各地の気候や生活文化の対応について意欲的に探究できたか。気候と世界各地の自然災害との関連性についての調査等を意欲的に取り組んだか	4
	10	産業と生活文化	農業・工業・商業・サービス業の発展と生活文化の変化についての理解	農業・工業・商業・サービス業の発展と生活文化の変化について理解できたか	8
	11	経済発展による生活文化の変化～アジア・イスラーム圏・アフリカ	アジア・イスラーム圏・アフリカを中心とする諸地域の開発の背景を捉え, 開発と自然環境, 生活文化, 産業との関わりを整理する	地図, 資料や写真から開発の背景を捉え, 開発と自然環境, 生活文化, 産業との関わりを整理できたか	8

	12	経済統合とグローバル化による生活文化の変化～EU・ロシア・北アメリカ	EU・ロシア・北アメリカを中心とする諸地域の開発の背景を捉え、開発と自然環境, 生活文化, 産業との関わりを整理する	地図、資料や写真から, 自然環境と生活文化の共通性と異質性を開発の歴史から考察できたか	7
3 学 期	1	土地の開発と移民による生活文化の形成～南アメリカ・オーストラリア	南アメリカ・オーストラリアを中心とする諸地域の開発の背景を捉え、開発と自然環境, 生活文化, 産業との関わりを整理する	地図、資料や写真から開発の背景を捉え、開発と自然環境, 生活文化, 産業との関わりを整理できたか	5
	2	生活圏の諸課題と地域調査	生活圏の諸課題についてテーマを設定し、資料調査や現地調査をふまえて結果を整理、分析、考察し、発表する	生活圏の諸課題についてテーマを設定し、資料調査や現地調査をふまえて結果を整理、分析、考察し、発表できたか	5
	3				

7 学習者へのメッセージなど

地理の学習では、「なぜ」そのような現象が起きているのかを学んでいきます。身近な地域の課題探究も、国際的な諸課題の探究も、自分の目で見えて聞いて調査し、考えたことを伝える点においては変わりません。一緒に楽しく学んでいきましょう。

令和7年度 年間授業計画

科目(講座名)	公共	2単位	必履修	学年	1年
使用教科書 補助教材 その他	教科書：詳述公共（実教出版） 資料集：クローズアップ公共 2024（第一学習社）	教科担当			

1 学習の目標

個人・社会・伝統と文化の視点から人間のあり方について理解するとともに、公共空間に生きる主権者として、自己形成及び社会形成に主体的に参画することの意義について考察する。

2 授業内容

- ①青年期の特徴と発達課題について理解するとともに、古代の先哲の思想を元に社会形成に主体的に参画することの意義について考察する。
- ②政治と民主主義，地方自治及び国会，内閣のしくみと役割、政治参加と選挙，政党と利益集団，メディアと世論について，民主政治の実現の観点から理解する。
- ③経済活動の意義，経済循環，中央銀行の役割と金融環境の変化，財政の働きと課題，社会保障の考え方と課題について，実際の社会生活の事象とも関連させながら理解する。
- ④現代の諸課題について判断し選択する際の考え方としての功利主義と幸福の原理や義務論と公正の原理を理解する。
- ⑤現代社会の諸課題について，探究的な課題を設定し，課題解決に向けて必要な情報を収集して分析したり考察したりする。

3 学習方法

予習 教科書および資料集の該当箇所を読み、授業内での理解に向けた準備を行う
復習 使用したプリントを見直し、語句の意味等で理解の不十分な点を教材を用いて確認する
課題 プリント内の記述や振り返り等を提出する

4 学習到達目標と「観点別学習状況の評価」の評価規準

【知識及び技能】

公共空間に生きる主権者としての在り方生き方について理解する。

【思考力、判断力、表現力等】

理解したこと，考察したことなどを適切な方法で表現している。

【学びに向かう力、人間性等】

在り方生き方について，自己とのかかわりにおいて主体的に探究している。

5 年間予定授業時間

予定時間数	時間	1学期（25時間）	2学期（30時間）	3学期（15時間）
-------	----	-----------	-----------	-----------

6 授業計画

期	月	学習内容	学習内容	学習到達目標	時数
1 学期	4	公共的な空間をつくる私達	青年期の特徴と発達課題について理解するとともに、古代の先哲の思想を元に社会形成に主体的に参画することの意義について考察する。	公共空間に生きる青年としての在り方生き方について理解する。理解したこと、考察したことなどを適切な方法で表現している。在り方生き方について、自己とのかかわりにおいて主体的に探究している。	10
	6	民主政治と私達	政治と民主主義、地方自治及び国会、内閣のしくみと役割、政治参加と選挙、政党と利益集団、メディアと世論について、民主政治の実現の観点から理解する。	公共空間に生きる主権者としての在り方生き方について理解する。理解したこと、考察したことなどを適切な方法で表現している。在り方生き方について、自己とのかかわりにおいて主体的に探究している。	15
2 学期	9	経済社会で生きる私たち	経済活動の意義、経済循環、中央銀行の役割と金融環境の変化、財政の働きと課題、社会保障の考え方と課題について、実際の社会生活の事象とも関連させながら理解する。	公共空間に生きる経済人としての在り方生き方について理解する。理解したこと、考察したことなどを適切な方法で表現している。在り方生き方について、自己とのかかわりにおいて主体的に探究している。	15
	11	共に生きるための倫理	現代の諸課題について判断し選択する際の考え方としての功利主義と幸福の原理や義務論と公正の原理を理解する。	公共空間に生きる倫理的存在としての在り方生き方について理解する。理解したこと、考察したことなどを適切な方法で表現している。在り方生き方について、自己とのかかわりにおいて主体的に探究している。	15
3 学期	1	探究活動	現代社会の諸課題について、探究的な課題を設定し、課題解決に向けて必要な情報を収集して分析したり考察したりする。	理解したこと、考察したことなどを適切な方法で表現している。在り方生き方について、自己とのかかわりにおいて主体的に探究している。	15

7 学習者へのメッセージなど

公民的資質をつけるために最も大切なことは、時間をかけてじっくりと考えることと仲間と共に議論をすることです。日々の授業で学んだ内容に加え、今の社会で起きている様々な出来事に目を向け、それについてホームの仲間と話をしてみてください。

令和7年度 年間授業計画

科目(講座名)	数学 I	3 単位	必履修	学年	1 年
使用教科書 補助教材 その他	教科書 数学 I 数研出版(数 I /712) 補助教材 数研出版 サクシード数学 I + A 数研出版 サクシード数学 I 完成ノート 数研出版 チャート式基礎からの数学 I + A 数研出版 データの分析ノート(短期完成) スタディサプリ	教科担当			

1 学習の目標

数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象を本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。数学の良さを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的根拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

2 授業内容

数と式、2次関数、図形と計量およびデータの分析について、中学校で学んだ初歩的な知識を土台として、さらに深く学ぶ。
授業では予習と復習を前提とし、「例」と「例題」の解説及び「問」の学習によって理解を深める。また、サクシードやチャートおよび大学入試問題も扱い、教科書で学んだことの習熟を図り、応用力をつける。

3 学習方法

予習 定義、用語、定理、公式を知ることを中心に教科書を読むとともに、練習問題などに取り組むことを通して、疑問点を明確にする。
復習 授業内容を定着させるために、サクシードや青チャートを用いて反復練習する。また、理解を深めるために、サクシードや青チャートにある応用問題にも取り組む(数学が得意な生徒向け)。復習の際に出てきた疑問点は時間を空けることなく、授業担当者に質問すること。
課題 提出課題(定期考査ごとのサクシードや長期休業期間ごとの青チャート)、黒板で問題を解く課題のいずれも、他者に解説ができるくらいになるまで内容の理解を深め、適切な表現ができるようにする。クラス内で教えあうことができるようになることが理想。

4 学習到達目標と「観点別学習状況の評価」の評価規準

【知識・技能】
基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けることができる。
【思考力・判断力・表現力等】
問題を数学的に考察して解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養い、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることができる。
【主体的に学習に取り組む態度】
数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養うことができる。

5 年間予定授業時間

予定時間数	105 時間	1 学期 (51 時間)	2 学期 (54 時間)	3 学期 (時間)
-------	--------	---------------	---------------	------------

6 授業計画

期	月	学習内容	学習内容	学習到達目標	時数
1 学期	4	第1章 『数と式』	第1節「式の計算」 1. 多項式 2. 多項式の加法と減法および乗法 3. 因数分解	数を実数まで拡張することの意義を理解し、式の見方を豊かにするとともに、1次不等式や命題について理解を深め、数学的な事象の考察に活用することができる。	19
	5		第2節「実数」 4. 実数 5. 根号を含む式の計算		
			第3節「1次不等式」 6. 1次不等式 7. 1次不等式の利用		
		第2章 『集合と命題』	2. 命題と条件 3. 命題と証明		4
	6	第3章 『2次関数』	第1章「2次関数とグラフ」 1. 関数とグラフ 2. 2次関数のグラフ 3. 2次関数の最大と最小 4. 2次関数の決定	2次関数とそのグラフについて理解し、2次関数を用いて数量の変化を表現することの有用性を認識し、具体的な事象の考察に活用することができる。	28
	7		第2節「2次方程式と2次不等式」 5. 2次不等式 6. グラフと2次方程式 7. グラフと2次不等式		
2 学期	8 9	第5章 『データの分析』	1. データの処理 2. データの代表値 3. データの散らばりと四分位範囲 4. 分散と標準偏差 5. 2つの変量の間の関係 6. 仮説検定の考え方	統計の基本的な考え、相関係数の意味を理解するとともに、それを用いてデータを整理・分析し傾向を把握することができる。	19
	10	第4章 『図形の計量』	第1節「三角比」 1. 三角比 2. 三角比の相互関係 3. 三角比の拡張	直角三角形における三角比の定義、鈍角まで拡張する考え方を理解し、三角比を用いて、具体的な図形の計量に活用することができる。	35
	11 12		第2節「三角形への応用」 4. 正弦定理 5. 余弦定理 6. 正弦定理と余弦定理の応用 7. 三角形の面積 8. 空間図形への応用		
3 学期					

7 学習者へのメッセージなど

数学の実力をつけるために最も大切なことは、時間をかけてじっくりと考えることです。教科書の内容を理解したうえで、参考書やプリントなどの教科書＋αの内容の問題演習を必ず行ってください。また、数学は積み重ねの教科です。中学校で学習した内容や、日々の授業で学んだ内容が定着していないと授業についていけなくなりますので、授業の予習と復習を怠らない学習姿勢で臨んでください。

令和6年度 年間授業計画

科目(講座名)	数学 I	2 単位	必履修	学年	1 年
使用教科書 補助教材 その他	教科書 高等学校 数学 I 数研出版(数 I /713) 補助教材 数研出版 リピート数学 I + A 数研出版 リピート数学 I 完成ノート 数研出版 チャート式解法と演習数学 I + A 数研出版 データの分析ノート(短期完成)	教科担当			

1 学習の目標

数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学科したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象を本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。数学の良さを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的根拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

2 授業内容

数と式、2次関数、図形と計量およびデータの分析について、中学校で学んだ初歩的な知識を土台として、さらに深く学ぶ。
授業では予習と復習を前提とし、「例」と「例題」の解説及び「問」の学習によって理解を深める。また、リピートやチャートおよび大学入試問題も扱い、教科書で学んだことの習熟を図り、応用力をつける。

3 学習方法

予習 定義、用語、定理、公式を知ることを中心に教科書を読むとともに、練習問題などに取り組むことを通して、疑問点を明確にする。
復習 授業内容を定着させるために、リピートやチャートを用いて反復練習する。また、理解を深めるために、リピートやチャートにある応用問題にも取り組む(数学が得意な生徒向け)。復習の際に出てきた疑問点は時間を空けることなく、授業担当者に質問すること。
課題 提出課題(定期考査ごとのリピートや長期休業期間ごとのチャート)、黒板で問題を解く課題のいずれも、他者に解説ができるくらいになるまで内容の理解を深め、適切な表現ができるようにする。クラス内で教えあうことができるようになることが理想。

4 学習到達目標と「観点別学習状況の評価」の評価規準

【知識・技能】
基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けることができる。
【思考力・判断力・表現力等】
問題を数学的に考察して解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養い、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることができる。
【主体的に学習に取り組む態度】
数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養うことができる。

5 年間予定授業時間

予定時間数	70 時間	1 学期 (26 時間)	2 学期 (28 時間)	3 学期 (16 時間)
-------	-------	---------------	---------------	---------------

6 授業計画

期	月	学習内容	学習内容	学習到達目標	時数
1 学期	4	第1章 『数と式』	第1節「式の計算」 1. 多項式 2. 多項式の加法と減法および乗法 3. 因数分解	数を実数まで拡張することの意義を理解し、式の見方を豊かにするとともに、1次不等式について理解を深め、数学的な事象の考察に活用することができる。	6
	5		第2節「実数」 4. 実数 5. 根号を含む式の計算		
			第3節「1次不等式」 6. 1次不等式 7. 1次不等式の利用		6
	6	第2章 『集合と命題』	2. 命題と条件 3. 命題と証明	命題について理解を深め、数学的な事象の考察に活用することができる。	9
	7	第3章 『2次関数』	第1章「2次関数とグラフ」 1. 関数とグラフ 2. 2次関数のグラフ 3. 2次関数の最大と最小 4. 2次関数の決定	2次関数とそのグラフについて理解し、2次関数を用いて数量の変化を表現することの有用性を認識し、具体的な事象の考察に活用することができる。	5
2 学期	8 9		第2節「2次方程式と2次不等式」 5. 2次不等式 6. グラフと2次方程式 7. グラフと2次不等式	2次方程式の解と2次関数のグラフとの関係について理解し、2次関数のグラフを用いて2次不等式の解を求めることができる。	10
	10	第4章 『図形の計量』	第1節「三角比」 1. 三角比 2. 三角比の相互関係 3. 三角比の拡張	直角三角形における三角比の定義、鈍角まで拡張する考え方を理解し、三角比を用いて、具体的な図形の計量に活用することができる。	18
	11 12		第2節「三角形への応用」 4. 正弦定理 5. 余弦定理 6. 正弦定理と余弦定理の応用 7. 三角形の面積 8. 空間図形への応用		
3 学期	1 2 3	第5章 『データの分析』	1. データの処理 2. データの代表値 3. データの散らばりと四分位範囲 4. 分散と標準偏差 5. 2つの変量の間の関係 6. 仮説検定の考え方	統計の基本的な考え、相関係数の意味を理解するとともに、それを用いてデータを整理・分析し傾向を把握することができる。	16

7 学習者へのメッセージなど

数学の実力をつけるために最も大切なことは、時間をかけてじっくりと考えることです。教科書の内容を理解したうえで、参考書やプリントなどの教科書＋αの内容の問題演習を必ず行ってください。また、数学は積み重ねの教科です。中学校で学習した内容や、日々の授業で学んだ内容が定着していないと授業についていけなくなりますので、授業の予習と復習を怠らない学習姿勢で臨んでください。

令和7年度 年間授業計画

科目(講座名)	数学Ⅱ (第1学年)	1単位	学校必履修	学年	1年
使用教科書 補助教材 その他	教科書 数学Ⅱ (数研出版) 補助教材 サクシード数学Ⅱ+B 基礎からの数学Ⅱ+B (青チャート) スタディサプリ	教科担当			

1 学習の目標

数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、場合の数と確率、図形の性質では、事象を数学化したり、法則性を見出し、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。また、事象を論理的に考察する力、事象を本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。数学と人間の活動では、数学の良さを認識し積極的に数学を活用しようとする態度を養うとともに、人間がどのようにして数学を活用してきたか、その歴史を辿りつつ、数学が現代においてどのように生かされているかについて理解を深める。全体を通して、粘り強く考え数学的根拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

2 授業内容

数学Ⅰで学んだ知識を土台として、さらに体系的に数学を理解し、発展的に思考を深めて問題解決につながるような学びを得ることを目的とした学習を行う。
授業では予習と復習を前提とし、「例」と「例題」の解説及び「問」の学習によって理解を深める。また、サクシードやチャート式、スタディサプリ および大学入試問題も扱い、教科書で学んだことの習熟を図り、応用力をつける。

3 学習方法

予習 定義、用語、定理、公式を知ることを中心に教科書を読むとともに、練習問題などに取り組むことを通して、疑問点を明確にする。
復習 サクシードやチャート式を用いて反復練習をする。また、理解を深めるために、サクシードやチャート式にある応用問題にも取り組む。復習の際に出てきた疑問点や不明点は放課後等に授業担当者に質問し解決すること。
課題 定期考査ごとにサクシードの完成ノートを提出する。発展的内容としてチャート式を用いた課題がある。また、週末を中心に Teams 上に課題があがることもある。長期休業日中には、スタディサプリの課題配信も行う。いずれも、他者に解説ができるくらいになるまで内容の理解を深め、適切な表現ができるようにする。クラス内で教えあうことができるようになることが理想である。

4 学習到達目標と「観点別学習状況の評価」の評価規準

【知識・技能】
基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けることができる。
【思考力・判断力・表現力等】
問題を数学的に考察して解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養い、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることができる。
【主体的に学習に取り組む態度】
数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養うことができる。

5 年間予定授業時間

予定時間数	35時間	3学期（35時間）
-------	------	-----------

6 授業計画

期	月	学習内容	学習内容	学習到達目標	時数
3 学期	1	第1章 式と証明 第1節 式と計算	1. 二項定理 2. 多項式の割り算 3. 分数式とその計算 4. 恒等式	・パスカルの三角形と関連付けて二項定理を理解できるようになる。 ・多項式の割り算および分数式の計算ができるようになる。 ・恒等式の本質および性質を理解し、係数決定などの処理ができるようになる。	10
	2	第2節 等式と不等式の証明	5. 等式の証明 6. 不等式の証明 応用演習	・同値を用いて、等式を証明することができる。比例式や連比の問題を解決することができるようになる。 ・実数の大小関係や平方の大小関係など、数の性質を用いて、多様な不等式の証明ができるようになる。	16
	3	第2章 複素数と方程式	1. 複素数 2. 2次方程式の解と判別式 3. 解と係数の関係 4. 剰余の定理と因数定理 5. 高次方程式 応用演習	・複素数の基本的な定義等を理解し、処理することができるようになる。 ・数の拡張において2次方程式の技法を用いて問題解決を図ることができるようになる。 ・解と係数の関係を使って対象式の値などを求めることができるようになる。 ・因数分解や因数定理の活用により高次方程式を解くことができ、方程式の既知の解（虚数解含む）から係数の決定ができるようになる。	9
		第3章 図形と方程式 第1節 点と直線	1. 直線上の点 2. 平面上の点 3. 直線の方程式 4. 2直線の関係 応用演習	線分や平面上での点の分点の座標を求める、2点間の距離を求めることができるようになる。図形の性質の証明ができるようになる。 ・多様な直線の方程式を、変数を用いて表すことができるようになる。 ・ $kF(x, y) + G(x, y) = 0$ の形を利用して、直線の方程式を求めることができるようになる。 ・点と直線の距離の公式を活用できるようになる。 ・円の性質を理解し円の方程式を利用できるようになる。	
		第2節 円	5. 円の方程式 6. 円と直線 7. 2つの円 応用演習		
		第3節 軌跡と領域	8. 軌跡と方程式 9. 不等式の表す領域 応用演習		

7 学習者へのメッセージなど

数学の実力をつけるために最も大切なことは、時間をかけてじっくりと考えることです。教科書は最低限の内容と心得て、参考書やプリントなどの教科書+αの内容の問題演習を必ず行ってください。また、数学は積み重ねの教科です。高校で学習した内容や、日々の授業で学んだ内容に漏れがあると授業についていけなくなりますので、授業の予習と復習を怠らない学習姿勢で臨んでください。 復習の仕方として、参考例を3つ紹介します。 ① サクシードA問題と重要例題を中心に学習する。（間違えた問題は繰り返し演習する） ② サクシードB問題と発展問題に取り組む。（間違えた問題は繰り返し演習する） ③ 青チャートの練習問題について、なるべく多くの問題を演習する。（レベルを限定しても良い）
--

令和7年度 年間授業計画

科目(講座名)	数学 A	2 単位	必修修	学年	1 年
使用教科書 補助教材 その他	教科書 高等学校数学 A 数研出版 (数 A/712) 補助教材 数研出版 サクシード 数学 I +A 数研出版 サクシード数学 A 完成ノート 数研出版 チャート式基礎からの数学 I +A	教科担当			

1 学習の目標

数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、場合の数と確率、図形の性質では、事象を数学化したり、法則性を見出し、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。また、事象を論理的に考察する力、事象を本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。数学と人間の活動では、数学の良さを認識し積極的に数学を活用しようとする態度を養うとともに、人間がどのようにして数学を活用してきたか、その歴史を辿りつつ、数学が現代においてどのように生かされているかについて理解を深める。全体を通して、粘り強く考え数学的根拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

2 授業内容

場合の数と確率、図形の性質について、中学校で学習した知識を発展させて深く学ぶ。授業では予習と復習を前提とし、「例」と「例題」の解説及び「問」の学習によって理解を深める。また、サクシードを活用して日々の復習を行う。チャート式も日々の復習に用いるほか、より深い学習に発展させたい内容を取り扱うときにも使用する。教科書で学んだことの習熟を図り、応用力をつける。

3 学習方法

予習 定義、用語、定理、公式を知ることを中心に教科書を読むとともに、練習問題などに取り組むことを通して、疑問点を明確にする。

復習 サクシードやチャート式を用いて反復練習をする。また、理解を深めるために、サクシードやチャート式にある応用問題にも取り組む。復習の際に出てきた疑問点は時間を空けることなく、授業担当者に質問すること。

課題 定期考査ごとにサクシード完成ノートを提出する。長期休業期間にはチャート式を用いた課題がある。いずれも、他者に解説ができるくらいになるまで内容の理解を深め、適切な表現ができるようにする。クラス内で教えあうことができるようになることが理想である。

4 学習到達目標と「観点別学習状況の評価」の評価規準

【知識・技能】
 場合の数と確率、図形の性質、数学と人間の活動の各分野において、基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けることができる。

【思考力・判断力・表現力等】
 問題を数学的に捉え表現する力や、状況を適切に判断して数式を正しく処理する力を身につける。、また、思考の過程を振り返り、多面的・発展的に考えることができる。

【主体的に学習に取り組む態度】
 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養うことができる。

5 年間予定授業時間

予定時間数	時間	1 学期 (26 時間)	2 学期 (28 時間)	3 学期 (16 時間)

6 授業計画

期	月	学習内容	学習内容	学習到達目標	時数		
1 学期	4	第1章 『場合の数と確率』	第1節「場合の数」 1. 集合の要素の個数 2. 場合の数 3. 順列 4. 円順列・重複順列 5. 組合せ	集合の概念およびその要素の個数を求める手法を理解する。また、順列や組合せの定義を理解し、その総数や、様々な状況に応じた場合の数を求めることにより、これらに対する理解を深め、数学的な事象の考察に活用することができる。	12		
	5						
	6		第2節「確率」 6. 事象と確率 7. 確率の基本性質 8. 独立な試行の確率 9. 反復試行の確率	順列や組合せを用いて様々な状況における確率を考察することができる。また、それらを活用して原因の確率や期待値など、実際に社会の中で確率がどのように生かされているかを知るとともに具体的な事象を考察する。	14		
	7						
2 学期	8	第2章 『図形の性質』	10. 条件付き確率 11. 期待値			三角形や円に関する様々な性質を理解し、それらを活用することで辺・線分の長さや角の大きさを求めることや図形の証明に活用することができる。また、条件の変化により、公式はどのように変化するかなど、図形を数学的に考察する態度をもつ。	16
	9						
	10		第1節「平面図形」 1. 三角形の辺の比 2. 三角形の外心、内心、重心 3. チェバの定理、メネラウスの定理 4. 円に内接する四角形 5. 円と直線 6. 2つの円 7. 作図	空間図形における直線や平面の位置関係を正しく説明することができる。多面体の性質を理解し、体積などが求められる。	6		
	11						
12	第2節「空間図形」 9. 直線と平面 10. 空間図形と多面体						
3 学期	1	第3章 『数学と人間の活動』	1. 約数と倍数 2. 素因数分解 3. 最大公約数、最小公倍数 4. 整式の割り算 5. ユークリッドの互除法 6. 1次不定方程式 7. 記数法 8. 座標の考え方 9. ゲーム・パズルの中の数学	約数・倍数について理解し、素因数分解やユークリッドの互除法を活用して最大公約数、最小公倍数を求めることができる。1次不定方程式の解き方を知り、身の回りの問題に活用できる。古代と現代の数の表し方、平面・空間における座標の考え方を理解する。	16		
	2						
	3						

7 学習者へのメッセージなど

数学の実力をつけるために最も大切なことは、時間をかけてじっくりと考えることです。教科書は最低限の内容と心得て、参考書やプリントなどの教科書+αの内容の問題演習を必ず行ってください。また、数学は積み重ねの教科です。中学校で学習した内容や、日々の授業で学んだ内容に漏れがあると授業についていけなくなりますので、授業の予習と復習を怠らない学習姿勢で臨んでください。

令和7年度 年間授業計画

科目(講座名)	数学 A	2 単位	必履修	学年	1 年
使用教科書 補助教材 その他	教科書 高等学校数学 A 数研出版 (数 A/713) 補助教材 数研出版 REPEAT 数学 I + A 数研出版 REPEAT 数学 A 完成ノート 数研出版 チャート式解法と演習数学 I + A	教科担当			

1 学習の目標

数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学的に捉え、表現・処理する技能を身に付ける。また、事象を論理的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。数学と人間の活動では、数学の良さを認識し積極的に数学を活用しようとする態度を養うとともに、人間がどのようにして数学を活用してきたか、その歴史を辿りつつ、数学が現代においてどのように生かされているかについて理解を深める。全体を通して、粘り強く考え数学的根拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

2 授業内容

場合の数と確率、図形の性質について、中学校で学習した知識を発展させて深く学ぶ。授業では予習と復習を前提とし、「例」と「例題」の解説及び「問」の学習によって理解を深める。また、REPEAT を活用して日々の復習を行う。チャート式は長期休業中の復習に用いるほか、授業内においてもより深い学習に発展させたい内容を取り扱うときにも使用する。教科書で学んだことの習熟を図り、応用力をつける。

3 学習方法

予習 定義、用語、定理、公式を知ることを中心に教科書を読むとともに、練習問題などに取り組むことを通して、疑問点を明確にする。

復習 REPEAT やチャート式を用いて反復練習をする。また、理解を深めるために、REPEAT やチャート式にある応用問題にも取り組む(数学が得意な生徒向け)。復習の際に出てきた疑問点は時間を空けることなく、授業担当者に質問すること。

課題 定期考査ごとに REPEAT 完成ノートを提出する。長期休業期間にはチャート式を用いた課題がある。いずれも、他者に解説ができるくらいになるまで内容の理解を深め、適切な表現ができるようにする。クラス内で教えあうことができるようになることが理想である。

4 学習到達目標と「観点別学習状況の評価」の評価規準

【知識・技能】
 場合の数と確率、図形の性質、数学と人間の活動の各分野において、基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けることができる。

【思考力・判断力・表現力等】
 問題を数学的に捉え、解決の過程や結果を考察し判断したりする力を養い、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることができる。

【主体的に学習に取り組む態度】
 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養うことができる。

5 年間予定授業時間

予定時間数	時間	1 学期 (26 時間)	2 学期 (28 時間)	3 学期 (16 時間)

6 授業計画

期	月	学習内容	学習内容	学習到達目標	時数		
1 学 期	4	第1章 『場合の数と確率』	第1節「場合の数」 1. 集合の要素の個数 2. 場合の数 3. 順列 4. 円順列・重複順列 5. 組合せ	集合の概念およびその要素の個数を求める手法を理解する。また、順列や組合せの定義を理解し、その総数や、様々な状況に応じた場合の数を求めることにより、これらに対する理解を深め、数学的な事象の考察に活用することができる。	12		
	5						
	6		第2節「確率」 6. 事象と確率 7. 確率の基本性質 8. 独立な試行の確率 9. 反復試行の確率	順列や組合せを用いて様々な状況における確率を考察することができる。また、それらを活用して原因の確率や期待値など、実際に社会の中で確率がどのように生かされているかを知るとともに具体的な事象を考察する。	14		
	7						
2 学 期	8	第2章 『図形の性質』	10. 条件付き確率 11. 期待値			三角形や円に関する様々な性質を理解し、それらを活用することで辺・線分の長さや角の大きさを求めることや図形の証明に活用することができる。また、条件の変化により、公式はどのように変化するかなど、図形を数学的に考察する態度をもつ。	16
	9						
	10		第1節「平面図形」 1. 三角形の辺の比 2. 三角形の外心、内心、重心 3. チェバの定理、メネラウスの定理 4. 円に内接する四角形 5. 円と直線 6. 2つの円 7. 作図	空間図形における直線や平面の位置関係を正しく説明することができる。多面体の性質を理解し、体積などが求められる。	6		
	11						
	12	第2節「空間図形」 9. 直線と平面 10. 空間図形と多面体					
3 学 期	1	第3章 『数学と人間の活動』	1. 約数と倍数 2. 素因数分解 3. 最大公約数、最小公倍数 4. 整式の割り算 5. ユークリッドの互除法 6. 1次不定方程式 7. 記数法 8. 座標の考え方 9. ゲーム・パズルの中の数学	約数・倍数について理解し、素因数分解やユークリッドの互除法を活用して最大公約数、最小公倍数を求めることができる。1次不定方程式の解き方を知り、身の回りの問題に活用できる。古代と現代の数の表し方、平面・空間における座標の考え方を理解する。	16		
	2						
	3						

7 学習者へのメッセージなど

数学の実力をつけるために最も大切なことは、時間をかけてじっくりと考えることです。教科書は最低限の内容と心得て、参考書やプリントなどの教科書+αの内容の問題演習を必ず行ってください。また、数学は積み重ねの教科です。中学校で学習した内容や、日々の授業で学んだ内容に漏れがあると授業についていけなくなりますので、授業の予習と復習を怠らない学習姿勢で臨んでください。

令和7年度 年間授業計画

科目(講座名)	物理基礎	単位	2	学年	1年
使用教科書 補助教材 その他	教科書 高等学校物理基礎 (第一学習社) 補助教材 リードα物理基礎 (数研)	教科担当			

1 学習の目標

- 現代科学技術社会を読み解く科学的知識および科学的リテラシーの養成
- 現代技術社会を支える人材の育成および諸問題の科学的解決力の養成
- 知的好奇心の涵養 他者との協働的態度の伸長

2 授業内容

- 力と物体の運動について学習し、理論に基づいて物体の運動を表現できるようにする。
- 熱とエネルギーについて学習し、理論に基づいて物体の温度やエネルギーに関する予測を立てられるようにする。
- 波の性質や音波について学習し、波のふるまいについて理解する。
- 電荷や電流について学習し、電磁気学の基礎的な分野について理解を深める。

3 学習方法

予習 教科書を読み、学習の目標を明確にする。
 復習 教科書を読み、プリント・板書の内容を定着させる。問題集リードα物理基礎に取り組む。
 課題 実験レポート課題・リードαの課題などに取り組む。

4 学習到達目標と「観点別学習状況の評価」の評価規準

【【知識・技能】】
 日常生活や社会との関連を図りながら、物理現象についての観察、実験などを行うことを通して、物理現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能が身に付いている。

【思考力・判断力・表現力等】
 物理現象を対象に、探究の過程を通して、問題を見いだすための思考、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、調査、データの分析・解釈、推論などの探究の方法が習得できている。また、場面に合わせて、適切な物理法則を適用して考えることができ、自らの思考について具体的に表現することができる。

【主体的に学習に取り組む態度】
 物理現象に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする態度など、科学的に探究しようとする態度が養われている。難しい問題にも粘り強く繰り返し取り組むなど、積極的に学習に取り組もうとしている。

5 年間予定授業時間

予定時間数	時間	1学期 (26時間)	2学期 (28時間)	3学期 (16時間)
-------	----	------------	------------	------------

6 授業計画

期	月	学習内容	学習内容	学習到達目標	時数
1 学期	4	第Ⅰ章 運動とエネルギー	第1節 物体の運動	加速度運動する物体の運動について式を用いて適切に記述することができる。	
	5	第Ⅰ章 運動とエネルギー	第1節 物体の運動	加速度運動する物体の運動について式を用いて適切に記述することができる。	
	6	第Ⅰ章 運動とエネルギー	第2節 力と運動の法則	力を受けて運動する物体について、運動の法則に基づいて運動を適切に記述することができる。	
	7	第Ⅰ章 運動とエネルギー	第2節 力と運動の法則	力を受けて運動する物体について、運動の法則に基づいて運動を適切に記述することができる。	
2 学期	9	第Ⅰ章 運動とエネルギー	第3節 仕事と力学的エネルギー	仕事とエネルギーの関係性を理解している。 仕事の原理について理解している。	
	10	第Ⅰ章 運動とエネルギー	第3節 仕事と力学的エネルギー	力学的エネルギー保存の式を立てて問題を解くことができる。 力学的エネルギーが変化する場合について、仕事とエネルギーの関係を理解したうえで正確に記述することができる。	
	11	第Ⅱ章 熱	第1節 熱とエネルギー	熱量保存の式を立てて、物体の温度変化について記述することができる。	
	12	第Ⅲ章 波動	第1節 波の性質	波を表す物理量について理解し。波の重ね合わせ・波の反射・定常波について作図を通して理解できる。	
3 学期	1	第Ⅲ章 波動	第2節 音波	基本振動や共鳴・うなりについて理解できている。 理論をもとに物理現象を分析できる。	
	2	第Ⅳ章 電気	第1節 静電気と電流	クーロンの法則・オームの法則など、電荷・電流の基本的な性質について理解できる。	
	3	第Ⅳ章 電気	第2節 電流と磁場 第3節 エネルギーとその利用	電流と磁場の関係について理解している。 発電やエネルギー変換について理解している。	

7 学習者へのメッセージなど

物理基礎の学習を通して、科学的に探究する力を身につけていこう。物理についての気付きから、課題を設定し解決しようとする気持ちが大切です。物理現象に関する基本的な概念や原理・法則の理解を図るとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身につけよう。

令和7年度 年間授業計画

科目(講座名)	生物基礎	2単位	必修	学年	1年
使用教科書 補助教材 その他	教科書 ・啓林館 高等学校 生物基礎 補助教材 ・リードα 生物基礎 数研出版 ・スクエア最新図説生物 第一学習社	教科担当			

1 学習の目標

自然の事物・現象に対する関心や探究心を高める。理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験などを行うことを通して、科学的に探究する能力と態度を育てる。自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な自然観を育成する

2 授業内容

生物の多様性と共通性について探究を通して、生物の体を構成する共通の基本単位である細胞の構造と働きを学び、生命活動に必要なエネルギーと代謝について理解する。生物と遺伝子について探究を通して、細胞の働き及びDNAの構造と機能の概要を理解する。生物の体内環境の維持について探究を通して、生物には体内環境を維持する仕組みがあることを理解し、体内環境の維持と健康との関係について認識する。生物の多様性と生態系について探究を通して、生態系の成り立ちを理解し、その保全の重要性について認識する。

3 学習方法

予習 教科書を読み、学習の目標を明確にする。
復習 教科書・図説を読み、学習プリントの内容を定着させる。問題集リードα生物基礎に取り組む。
課題 探究活動などの課題に取り組む。

4 学習到達目標と「観点別学習状況の評価」の評価規準

【知識・技能】

日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象についての観察、実験などを行うことを通して、生物や生物現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能が身に付いている

【思考力・判断力・表現力等】

生物や生物現象を対象に、探究の過程を通して、問題を見いだすための観察、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、調査、データの分析・解釈、推論などの探究の方法が習得できている。また、報告書を作成したり発表したりして、科学的に探究する力が育まれている。

【主体的に学習に取り組む態度】

生物や生物現象に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする態度など、科学的に探究しようとする態度が養われている。その際、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度が養われている。

5 年間予定授業時間

予定時間数	時間	1学期 (27時間)	2学期 (28時間)	3学期 (15時間)
-------	----	------------	------------	------------

6 授業計画

期	月	学習内容	学習内容	学習到達目標	時数
1 学期	4	第1部 生物 の特徴 第1章 生物 の特徴	第1節 生物の共通性と多様性	・現存する多様な生物には共通性があり、その共通性は共通の起源をもつことに由来することがわかる。 ・単細胞生物と多細胞生物の機能における共通性と多細胞生物の体の成り立ちがわかる。	4
	5	第1章 生物 の特徴	第2節 生物とエネルギー	・生命活動に必要なエネルギーとATPについてわかる。 ・ATPと代謝についてわかる。	8
	6	第1章 生物 の特徴	第2節 生物とエネルギー	・光合成により光エネルギーを用いて有機物がつくられ、呼吸により有機物からエネルギーが取り出されることがわかる。	8
	7	第2部 遺伝 子とその働き 第2章 遺伝子とその 働き	第1節 遺伝情報とDNA	・DNAが塩基の相補性に依存して二重らせん構造をもち、塩基の配列が遺伝情報となることがわかる。 ・体細胞分裂の分裂前に母細胞のDNAと同じ塩基配列のDNAが作られることがわかる。 ・細胞周期の間期（G1, S, G2期）と分裂期におけるDNA量の変化がわかる。	7
2 学期	8 9	第2章 遺伝子とその 働き	第2節 遺伝情報とタンパク質の合成	・DNAの塩基配列の情報がタンパク質のアミノ酸配列の情報になることがわかる。 ・転写と翻訳における塩基配列からアミノ酸配列への情報の流れがわかる。タンパク質が酵素として働くことで、生命現象を支えていることがわかる。 ・すべての遺伝子が常に発現しているわけではなく、個体の部位に応じて発現している遺伝子が異なることがわかる。	6
	10	第3部 神経 系と内分泌系 による調節	第1節 情報の伝達	・生物の体内環境が一定に保たれていること、体内環境とは体液の環境であることがわかる。 ・自律神経系によって心拍数が適切に保たれていることがわかる。	8
	11		第2節 体内環境の維持のしくみ 第2節 体内環境の維持のしくみ	・体内環境がホルモンにより調節されていることがわかる。 ・体内環境は自律神経やホルモンの作用により一定の範囲に保たれていることがわかる。 ・体温調節は交感神経や、ホルモンの作用により保たれていることがわかる。 ・体液濃度が高い場合、水分調節はバソプレシンや、鉱質コルチコイド	7

				の作用により水が再吸収されることがわかる。	
	12	第4章 免疫	第1節 免疫の働き	・病原菌などの異物を認識，排除して体内環境を守るしくみがわかる。 ・非特異的な自然免疫の反応がわかる。 ・体液性免疫と細胞性免疫のそれぞれのしくみがわかる。 ・免疫が実際の病気とどのように関わっているのかがわかる。	7
3 学 期	1	第4部 生物の多様性と生態系 第5章 植生と遷移	第1節 植生と遷移	・多様な植生が成立する要因には植物の環境への適応が関わっている。 ・陸上の植生が移り変わっていくこととその要因がわかる。 ・気温と降水量の違いによって，地球上ではさまざまなバイオームが成立していることがわかる。 ・日本のバイオームの特徴がわかる。	7
	2	第6章 生態系とその保全	第1節 生態系と生物の多様性	・生態系の成り立ちがわかる。 ・キーストーン種と間接効果について理解している。	4
	3	第6章 生態系とその保全	第2節 生態系のバランスと保全	・生態系のバランスについて理解する。 ・生物多様性の保全の重要性がわかる。	4

7 学習者へのメッセージなど

生物基礎の学習を通して，科学的に探究する力を身につけていこう。生物についての気付きから，課題を設定し解決しようとする気持ちが大切です。生物や生物現象に関する基本的な概念や原理・法則の理解を図るとともに，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本的な技能を身につけよう。

令和7年度 年間授業計画

科目(講座名)	化学基礎	2単位	必修	学年	1年
使用教科書 補助教材 その他	教科書 ・「化学基礎」 東京書籍 補助教材 ・新課程版 標準セミナー化学基礎 第一学習社	教科担当			

1 学習の目標

- ・日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。
- ・観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- ・物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

2 授業内容

化学の概念を学び、人間生活との関わりを理解してこれからの化学の役割について考察する。物質の構成について理解する。元素の周期性、原子、イオン、分子について理解する。化学結合の種類と特徴について理解する。物質の概念を理解し、化学反応式を習得する。酸と塩基、塩、pHを理解する。酸化還元反応の概念を理解し、酸化剤還元剤について理解する。酸化還元の応用である電池電気分解について理解する。

3 学習方法

予習 教科書を読む。実験プリントを事前に読み、疑問点を明確にする。
復習 授業内容を定着させるために、教科書の練習問題と標準セミナー化学基礎に取り組んで定期考査に取り組む。
課題 実験プリントを完成させて提出する。

4 学習到達目標と「観点別学習状況の評価」の評価規準

- 【知識・技能】物質とその変化について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。また、物質とその変化に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能の基礎を身に付けている。
- 【思考力・判断力・表現力等】物質とその変化の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。
- 【主体的に学習に取り組む態度】日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化について関心を持ち、意欲的に探究しようとするとともに、科学的な見方や考え方を身に付けている。

5 年間予定授業時間

予定時間数	70 時間	1 学期 (26 時間)	2 学期 (28 時間)	3 学期 (16 時間)
-------	-------	--------------	--------------	---------------

6 授業計画

期	月	学習内容	学習内容	学習到達目標	時数
1 学期	4	化学と人間生活	生活の中の化学―材料としての物質と人間生活の関わり― 化学とその役割―機能物質としての物質と人間生活の関わり―	生活の中の化学について再発見をし、化学の役割について理解を深める。物質の種類と性質について学び、化学を学ぶことに意欲をもつ。 物質が原子、イオン、分子から構成されていることを理解する。構成粒子の違いと物質の種類の違いを理解する。	8
		1 章 物質の構成	1 節 物質の探究 2 節 物質の構成粒子		
	5	2 章 物質と化学結合	1 節 イオン結合 2 節 共有結合と分子間力 3 節 金属結合	イオンの生成を電子配置と関連付けて理解し、イオン結合およびイオン結合からなる物質の性質を理	9

			4 節 化学結合と物質	解する。 共有結合を電子配置と関連付けて理解し、分子からなる物質の性質を理解する。さらに、分子間の結合によって物質ができていることを理解する。 金属原子間の結合及び金属からなる物質の性質を理解する。 物質の結晶を、結合の違いによって区別し、性質を整理する。 具体的な物質について、それぞれ性質や利用例を理解する。	
	6 7	3 章 物質の変化	1 節 物質と化学反応式	原子量・分子量・式量などの物質の基本事項を理解する。 物質と溶液の濃度の関係を理解する。	9
2 学期	8 9		1 節 物質と化学反応式	化学反応式は化学反応に関与する物質とその量的関係を表すことを理解する。 化学の進歩の歴史と基本的な法則の発見の経緯について理解する。	8
	10		2 節 酸と塩基	水溶液の酸性・塩基性の強弱と水素イオン濃度との関係および pH について理解する。	8
	11		2 節 酸と塩基	酸と塩基の性質と、中和反応に関与する物質の量的関係を理解する。 中和滴定と滴定曲線により、中和反応を理解する。	8
	12		3 節 酸化還元反応	酸化・還元の定義を理解し、酸化還元反応が電子の授受によることを理解する	4
3 学期	1	酸化還元反応	3 節 酸化還元反応	酸化・還元の定義を理解し、酸化還元反応が電子の授受によることを理解する。酸化剤と還元剤の反応を理解する。 金属のイオン化傾向とそれによる反応性の違いを理解する。	6
	2		3 節 酸化還元反応	電子の授受や酸化数の変化から酸化還元反応を理解し、知識を身につけている。 実用電池や電気分解、金属の製錬など身近に酸化還元反応が利用されていることを知っている。”	6
	3	終章 化学が拓く未来	日常生活と化学	日常生活や社会において、さまざまな科学技術に支えられていることを理解している。	4

7 学習者へのメッセージなど

私たちはたくさんの物質に囲まれている。全部の性質を理解することはできないが、分類し一部を理解し、科学的ものの見方考え方を習得すると想像力によってたくさんの物質を理解することができる。化学はセントラルサイエンスと呼ばれ、人間が安全快適に生活する上で必須の学問である。

令和7年度 年間授業計画

科目(講座名)	体育	2単位	必履修	学年	1年
使用教科書 補助教材 その他	教科書 大修館(保体702) 新高等保健体育	教科担当			

1 学習の目標

各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身につけるようにする。運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

2 授業内容

レベルや技能の差に関係なく、全ての生徒に競技の魅力や楽しさを味わってもらうことができるよう、コツやポイントを明確にしたうえで、段階的な内容の授業を実施していく。また、基礎基本を重視したうえで、身に着けた技能を試合形式の場面でも発揮していく。

3 学習方法

予習 授業で行うスポーツについて、動画を見たりニュース等で情報を集めたりして、イメージを膨らますよう促す。

復習 授業後に Forms での振り返りの提出を実施する。

課題 日々の授業後の振り返りに加え、学期毎にレポート課題を出している。自分の考えをまとめ、実施した種目について、理解を深めることをねらいとする。

4 学習到達目標と「観点別学習状況の評価」の評価規準

【知識・技能】

運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することが出来るようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身につけるようにする。

【思考力・判断力・表現力等】

生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。

【主体的に学習に取り組む態度】

運動における競争や協働の経験を通して公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

5 年間予定授業時間

予定時間数	70 時間	1 学期 (26 時間)	2 学期 (28 時間)	3 学期 (16 時間)
-------	-------	--------------	--------------	--------------

6 授業計画

期	月	学習内容	学習内容	学習到達目標	時数
1 学期	4	体づくり運動 〈男女共通〉	〈体づくり運動〉 ・ 体ほぐしの運動・ 体の動きを高める運動・ 効率の良い組み合わせの実践・ バランスのよい組合せの実践	定期的・計画的に運動を継続することは、心身の健康、健康や体力の保持増進につながる意義があることについて、言ったり書き出したりすることができる。	4
	5 ～ 7	陸上競技 (男子)	〈短距離走〉 ・ 50m走・ クラウチングスタート・ スタートダッシュ・中間疾走・ フィニッシュ・加速走 〈ハードル〉 ・ ハードリングフォーム・ インターバルリズム・ スタートからのハードリング ○一人1台端末の活用	短距離では走る動作について連続性をもって捉え、有効な動きを身につけることができる。ハードルではスピードを維持した走りからハードルを低くリズムカルに越すことができる。	10
	5 ～ 7	球技:ネット型 (女子)	〈バレーボール〉 ・ パス練習・サーブ練習・ サーブレシーブ・ラリー・ スパイク・三段攻撃・ゲーム ○一人1台端末の活用	役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができる。	10
	5 ～ 7	器械運動 (男子)	〈マット運動〉 (回転系の技) 接転技群・ほん転技群 (巧技系) 平均立ち技群・組み合わせ演技 ○一人1台端末の活用	技の行い方は技の課題を解決するための合理的な動き方のポイントがあり、同じ系統の技には共通性があることについて理解するとともに、学習した基本的な技を発展させて、一連の動きで静止することができる。	10
	5 ～ 7	球技:ゴール型 (女子)	〈バスケットボール〉 ・ パス練習・ドリブル レイアップシュート・ パスからのシュート・ ドリブルシュート・ゲーム ○一人1台端末の活用	安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによってゴール前への進入などから攻防をすることができる。	10
	7	体育理論 (男女共通)	〈体育理論〉 ・ スポーツの発祥と成立	スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について理解するとともに、自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫し、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	2
2 学期	7 ～ 9	水泳 (男女共通)	〈水泳〉 クロール・平泳ぎ・背泳ぎ ・ 息継ぎ・フォーム・リレー・ 測定	手と足のコンビネーション、手の動作と呼吸のタイミングなどの技能を習得し、正しいフォームで速く、長く泳ぐことができる。また、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	8
	9	体づくり運動 (男女共通)	〈体づくり運動〉 ・ 体ほぐしの運動・ 体の動きを高める運動・ 効率の良い組み合わせの実践・ バランスのよい組合せの実践	1学期 体づくり運動 (男女共通) に準ずる。	2
	10 ～ 12	球技:ゴール型 (男子)	〈バスケットボール〉 1学期に準ずる。	1学期 球技:ゴール型 (女子) 〈バスケットボール〉に準ずる。	8

	10 ～ 12	器械運動（女子）	〈マット運動〉 1 学期に準ずる。	1 学期 器械運動（男子）〈マット運動〉に準ずる。	8
	10 ～ 12	球技：ネット型 （男子）	〈バレーボール〉 1 学期に準ずる。	1 学期 球技：ネット型（女子）〈バレーボール〉に準ずる。	8
	10 ～ 12	陸上競技（女子）	〈短距離走〉〈ハードル〉 1 学期に準ずる。	1 学期 陸上競技（男子）〈短距離走〉〈ハードル〉に準ずる。	8
	12	体育理論 （男女共通）	〈体育理論〉 スポーツ文化の発展と現代社会	1 学期 体育理論（男女共通）に準ずる。	2
3 学期	1	体づくり運動 男女共通）	〈持久走〉 ・ランニングフォーム・ ペース走・測定 ○一人 1 台端末の活用	1 学期 体づくり運動（男女共通）に準ずる。	2
	1 ～ 3	陸上競技 （男女共通）	〈持久走〉 ・ランニングフォーム・ ペース走・測定 ○一人 1 台端末の活用	ペースの変化に対応して走ることができたり、自主的に取り組もうとしたりすることができる。	7
	1 ～ 3	球技：ゴール型 （男子）	〈サッカー〉 ・ボールコントロール・キック・ パス・トラッピング・ ドリブル・シュート・ゲーム ○一人 1 台端末の活用	安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによってゴール前への進入などから攻防をすることができる。	7
	1 ～ 3	球技：ネット型 （女子）	〈バドミントン〉 ・サービス・ストローク・ フライト・ゲーム ○一人 1 台端末の活用	安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができる。	7
	3	体育理論 （男女共通）	〈体育理論〉 ・オリンピック・パラリンピック と国際社会	1 学期 体育理論（男女共通）に準ずる。	2

7 学習者へのメッセージなど

体育の授業を通して、各種目の魅力や楽しさを見出し、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するためのきっかけをつかんでもらうことが一番の願いです。

体育の授業においては各種目の運動の特性を理解し、合理的、計画的な解決を図ることで、達成感や成就感を味わうことができます。仲間とともに、ぜひ主体的に授業に臨んでください。

令和7年度 年間授業計画

科目(講座名)	保健	1 単位	必履修	学年	1 年
使用教科書 補助教材 その他	教科書 大修館（保体702）新高等保健体育 補助教材 図説新高等保健	教科担当			

1 学習の目標

保健体育における各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

2 授業内容

現代社会と健康、安全な社会生活、生涯を通じる健康について、教科書の内容を踏まえた上でさらに理解を深める。自他の課題を発見し、解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現する機会を設ける。生涯を通じた健康を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養うため、学んだ内容を自らの生活と照らし合わせ実践する視点を持つ。

3 学習方法

予習 事前に教科書・図説を読み、学習内容の概要を把握するとともに、自他に関わる課題を発見する。

復習 発表やワークシートへの記入を通して、学んだ内容をアウトプットすることで振り返る。

課題 自ら課題を発見し、解決に向けて取り組むとともに、学びを新たな課題の発見につなげる。

4 学習到達目標と「観点別学習状況の評価」の評価規準

【知識・技能】

個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。

【思考力・判断力・表現力等】

健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。

【主体的に学習に取り組む態度】

生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

5 年間予定授業時間

予定時間数	35 時間	1 学期 (11 時間)	2 学期 (12 時間)	3 学期 (5 時間)
-------	-------	---------------	---------------	--------------

6 授業計画

期	月	学習内容	学習活動	学習到達目標	時数
1 学期	4 ・ 5	現代社会と健康	- 生活習慣病の予防と回復 - 身体活動・運動と健康 - 食事と健康 - 休養・睡眠と健康 - がんの予防と回復	- 生活習慣病のリスクを軽減し予防するために必要な個人の取り組みについて理解する。 - 身体活動・運動と健康の関係について理解する。 - 食事と健康の関係について理解する。 - 休養・睡眠と健康の関係について理解する。 - がんには様々な種類があることやがんの発生要因について理解する。	
	5 ・ 6		- 喫煙と健康 - 飲酒と健康 - 薬物乱用と健康	- 喫煙による健康への影響について理解する。 - 飲酒による健康への影響について理解する。 - 薬物乱用による健康および社会への影響について理解する。	
	7		- 精神疾患の特徴 - 精神疾患への対応	- 代表的な精神疾患の特徴や症状について理解する。 - 精神疾患の予防や早期発見、治療や支援など適切な対応について理解する。	
2 学期	8 ・ 9		- 日本における健康課題の変遷 - 健康の考え方と成り立ち - ヘルスプロモーションと健康に関わる環境づくり - 健康に関する意思決定・行動選択	- 健康指標や疾病構造の変化から、日本の健康課題を理解する。 - 健康の考え方がどのように変化してきたのか理解する。 - ヘルスプロモーションの考え方に基づく環境づくりの重要性を理解する。 - 健康を保持・増進するには適切な意思決定・行動選択が重要であることを理解する。	
	9 ・ 10		- 現代における感染症の問題 - 感染症の予防 - 性感染症・エイズとその予防	- 感染症の発生や流行には自然や社会の環境が影響することについて理解する。 - 感染症予防の三原則について理解する。 - 性感染症・エイズの現状と今後の課題について理解する。	
	11	安全な社会生活	- 事故の現状と発生要因 - 交通事故防止の取り組み - 安全な社会の形成	- 様々な場面で起こる事故とその被害の実態について理解する。 - 交通事故防止には個人の取り組みと交通環境の整備が必要であることを理解する。 - 安全な社会をつくるために必要な個人の取り組みを理解する。	
	12		- 応急手当の意義と救急医療体制 - 心肺蘇生法 - 日常的な応急手当	- 応急手当の意義と、その手順や方法を身につける必要性について理解する。 - 心肺蘇生法の意義や方法、手順について理解する。 - 日常生活で起こるけがの基本的な	

				応急手当の方法を理解し、できるようにする。	
3 学 期	1 ・ 2	生涯を通じる健康	・思春期と健康 ・性意識の変化と性行動の選択	・思春期における心身の発達や性的成熟について理解する。 ・自分の行動への責任感や異性の理解と尊重の必要性について理解する。	
	2 ・ 3		・結婚生活と健康 ・妊娠・出産と健康 ・家族計画	・結婚生活と健康との関係について理解する。 ・受精、妊娠、出産の過程と、それに伴う健康課題について理解する。 ・家族計画の意義について理解する	

7 学習者へのメッセージなど

「保健」は、自らの生活に直結する科目です。知識の定着だけでなく、実践にうつす視点を常に持ち続けてください。課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現の探究の過程を通して、自ら学び、学びを次につなげる習慣を身につけましょう。

令和7年度 年間授業計画

科目(講座名)	スポーツ概論	1単位	必履修	学年	1年
使用教科書 補助教材 その他	教科書 大修館 基礎から学ぶスポーツ概論	教科担当			

1 学習の目標

各種の運動の特性に応じた技能及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に与える力を養う。生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力のある生活を営む態度を養う。

2 授業内容

スポーツに関わる内容について、多面的・多角的に学び、様々な課題に対する思考力や判断力を身に付ける。また、時事的な内容を取り扱い、自分の競技生活との結びつきを深めることで、生徒たちの興味関心をさらに引き出す。
生涯にわたって、主体的にスポーツに携わり、社会に貢献できる人物となれるよう、知識を深めるとともに、様々な課題に対応できるような思考力や判断力を養っていく。

3 学習方法

予習 事前に授業で取り扱う題材に関するニュースを見たり、調べたりすることで、授業の内容をより深く理解することができるようにする。
復習 学習内容の理解度の確認、内容を整理するために Forms を使用して授業の振り返りを配信する。
課題 日々の授業後の振り返りに加え、学期毎にレポート課題を出している。スポーツに関わる内容を扱い、自分の考えをまとめ、スポーツに関わる理解を深めることをねらいとする。

4 学習到達目標と「観点別学習状況の評価」の評価規準

【知識・技能】
スポーツの多様な意義やスポーツの推進及び発展の仕方について理解するとともに、スポーツの推進及び発展に必要な技能を身に付ける。
【思考力・判断力・表現力等】
スポーツの推進及び発展に必要な自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
【主体的に学習に取り組む態度】
生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与するための学習に主体的に取り組む態度を養う。

5 年間予定授業時間

予定時間数	35 時間	1 学期 (13 時間)	2 学期 (14 時間)	3 学期 (8 時間)
-------	-------	--------------	--------------	-------------

6 授業計画

期	月	学習内容	学習内容	学習到達目標	時数
1 学期	4 ・ 5 ・ 6 ・ 7	スポーツの文化的特性や現代におけるスポーツの発展	・スポーツの文化的な特性・スポーツの発展に必要な事柄について理解を深める	・現代のスポーツは、オリンピックやパラリンピック等の国際大会を通して、世界平和や国際親善に大きな役割を果たし、共生社会の実現にも寄与していることが理解できる。	13
2 学期	8 ～ 10	豊かなスポーツライフの設計の仕方	・豊かなスポーツライフについて理解を深め、計画する ・「する、みる、支える、知る」など、スポーツを多様な視点から考え、課題を発見する話し合い活動やグループ討議を行う	・運動やスポーツの技能と体力は、相互に関連していること、期待する成果に応じた技能や体力の高め方があること、過度な負荷や長期的な酷使は、けがや疾病の原因となる可能性があることを理解できる。 ・運動やスポーツの効果的な学習の仕方について、「する、みる、支える、知る」などのスポーツの多様な関わり方において、スポーツを推進及び発展させる視点から課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、理由を添えて他者に伝えることができる。	7
	11 ～ 12	スポーツの多様な指導法と健康・安全	・スポーツの多様な指導法について理解するとともに、健康・安全に必要な知識及び技能を身に着ける	・スポーツの指導法には、参加者の目的や年齢、経験、障害の有無等に応じた基本的な指導の仕方や適切な練習方法の選択などがあることを理解できる。	7
3 学期	1 ～ 3	スポーツの企画と運営	・スポーツに関する企画運営について理解を深め、実際に行う	・スポーツ大会等を企画するには、参加の状況に応じた試合や発表の形式、運営組織、円滑に進行するための役割分担などの検討や実施後の評価が求められることを理解するとともに、スポーツ大会等の企画ができる。	8

7 学習者へのメッセージなど

スポーツには「する」「みる」「支える」などの関わり方があります。将来どのような立場になったとしても、授業を通して学習・経験することが活用されるような授業内容です。学習者がスポーツを通して社会に貢献できる人物となるよう、スポーツに関わる内容を多種多様に取り扱っています。

スポーツに関わる者にとって有意義な授業となるので、ぜひ意欲的に授業に臨んでください。

令和7年度 年間授業計画

科目(講座名)	スポーツ総合演習	1単位	必修	学年	1年
使用教科書 補助教材 その他	教科書 大修館 基礎から学ぶスポーツ概論 大修館(保体702) 新高等保健体育 補助教材	教科担当			

1 学習の目標

保健体育における各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身につけるようにする。運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

2 授業内容

1・2学年で学習する科目：保健で取り扱う内容からさらに発展させ、より専門的に多面的・多角的に「スポーツ」を学ぶ。
授業では、座学だけでなく実際に体を動かす内容も含めて学習に取り組むことによって理解を深める。また、スポーツ概論の教科書も活用することで、より専門的な内容を取り扱う。

3 学習方法

予習 事前に配信した学習プリントデータと該当する教科書の内容を把握することで、事前に自身に関係が深い内容や疑問点を明確にする。
復習 学習内容を定着するため、Formsを活用した振り返りを実施し、授業を通して何を考えたか・何に対して疑問を抱いたのかの言語化を繰り返すことで、専門種目での競技力向上にもつなげる。
課題 3学年で実施するスポーツ総合演習につなげるため、取り扱う教科書やスポーツに関連する題材を自身で設定し、その魅力や課題等を他者に分かりやすく伝える技能や方法を模索する。

4 学習到達目標と「観点別学習状況の評価」の評価規準

【知識・技能】
スポーツの多様な意義やスポーツの推進及び発展の仕方について理解するとともに、スポーツの推進及び発展に必要な技能を身に付けることができる。
【思考力・判断力・表現力等】
スポーツの推進及び発展に必要な自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝える力を養うことができる。
【主体的に学習に取り組む態度】
生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与するための課題研究に主体的に取り組む態度を養うことができる。

5 年間予定授業時間

予定時間数	35時間	1学期(7時間)	2学期(13時間)	3学期(8時間)
-------	------	----------	-----------	----------

6 授業計画

期	月	学習内容	学習内容	学習到達目標	時数
1 学期		スポーツの競技力を向上させよう	自身の経験や他者の経験をもとに、競技力向上としての側面から課題研究を実践し、どのような対処ができるかを学習する	自身のパフォーマンスを高めるための方法や自身のコンディションをコントロールできるかの考察をまとめることができる。	7
		スポーツの多様な理論や実践に関する課題研究	- 専攻種目の多様な発展や普及の歴史及び現状さらには文化的特性などを過去の文献から整理し、自らの考えをまとめる - スポーツの局面に着目して、戦況の変化を導き出したプレイや対戦相手の戦術の特徴などについて、記録データやビデオ等の映像から分析する	スポーツの多様な理論や実践に関する課題を設定・探求するため、スポーツ選手としての視点で様々な角度から分析し、自らの考えを他者に分かりやすく伝えるための資料をまとめることができる。	
2 学期		競技力を向上させる練習方法・練習計画を立てる	- 専攻種目の練習計画やトレーニング方法について調べ、感じ取ったことをまとめる - 競技力向上に向けた指導体制や情報戦略を理解する	スポーツをする上で練習を計画する視点で様々な角度から分析し、自身がスポーツをできる環境に感謝するとともに、指導者の視点でどのように選手を補助していくことができるか、他者に分かりやすく伝えることができる。	13
		スポーツを通じた多様な社会参画に関する課題研究	多様なスポーツ推進のための調べ学習を通して、指導者として練習を計画し専攻する種目の在り方や仕組みについて提案する	これまで学習した様々な視点から、多様なスポーツ推進のための調べ学習を通して、指導者として自分が専攻するスポーツの在り方や仕組みについて提案する準備を整えることができる。	
3 学期		学習のまとめ	自身がこれまで学習・まとめた内容について、他者に分かりやすくプレゼンテーションを行い、学習内容の総まとめを行う	自身が作成したプレゼンテーションを他者に分かりやすく伝えるとともに、他者の発表を聞き、自身の知見として3学年のスポーツ総合演習につなげることができる。	8

7 学習者へのメッセージなど

各専攻の競技者として、選手の視点だけでなく、様々な側面からの支えがあって競技ができているということを知る必要があります。スポーツを「する」「みる」「支える」「知る」の4つの観点と、競技者や指導者、サポーター等の多面的・多角的な切り口でプレゼンテーションができるよう準備を進めていきましょう。積極的な学習態度に期待しています。

令和7年度 年間授業計画

科目(講座名)	専門実技 スポーツ I	1 単位	必修	学 年	1 年
使用教科書 補助教材 その他	教科書 大修館 (保体702) 新高等保健体育 大修館 基礎から学ぶスポーツ概論	教科担当			

1 学習の目標

体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、主体的、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、健やかな心身の育成に資するとともに、生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与する資質・能力を育成することを目指す。

2 授業内容

【スポーツ I】・採点競技への多様な関わり方 体操競技 組体操 実技発表会に向けての練習
・測定競技への多様な関わり方 陸上競技 水泳 遠泳に向けての練習

3 学習方法

予習 演習や概論で学んだことや教科書「新高等保健体育」「スポーツ概論」を参考に、採点競技や測定競技で活用できるようにする。また、課題に適した練習方法を考える。
復習 考えた練習を取り入れ、運動観察やゲームなどを通して学習の成果を確認する。
課題 練習中の技能や戦術を観察・分析し課題発見に努める。その課題の解決に向けて思考・判断し次の目標に適した具体的な戦術や課題を設定する。

4 学習到達目標と「観点別学習状況の評価」の評価規準

【知識及び技能】
運動の主体的、合理的、計画的な実践に関する具体的な事項やスポーツの推進及び発展に寄与するための事項について理解しているとともに、生涯を通じたスポーツの推進及び発展に必要な技能を身に付けている。
【思考力、判断力、表現力等】
スポーツの多様な実践を推進及び発展についての自他や社会の課題を発見し、主体的、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。
【主体的に学習に取り組む態度】
生涯を通してスポーツと多様に関わるとともにスポーツの推進及び発展に寄与することができるよう、運動の主体的、合理的、計画的な実践に主体的に取り組もうとしている。

5 年間予定授業時間

予定時間数	35時間	1 学期 (13時間)	2 学期 (14時間)	3 学期 (8時間)
-------	------	-------------	-------------	------------

6 授業計画

期	月	学習内容	学習内容	学習到達目標	時数
1 学期	4・5月	I 期 【スポーツ I】 採点競技 測定競技	《1 年》 【スポーツ I】 ・体操 (マット運動・組体操)	【スポーツ I】 ・採点競技及び測定競技の推進及び発展に向けた多様な関わり方を理解するとともに、技能を身に付けている。 ・採点競技及び測定競技における自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに他者に伝	6

	6・7月	Ⅱ期 【スポーツⅠ】 採点競技 測定競技	《1年》 【スポーツⅠ】 ・水泳（遠泳練習）	えることができる。 ・採点競技及び測定競技の学習に主体的に取り組むとともに、公正、協力、責任、参画、共生などに対する意欲を高め健康・安全を確保して、生涯通してスポーツを継続するとともにスポーツの推進及び発展に寄与する態度を身に付けている。	7
2 学 期	8月末～10月前半	Ⅲ期 【スポーツⅠ】 採点競技 測定競技	《1年》 【スポーツⅠ】 ・体操（組体操・実技発表会練習） ・水泳（クロール・平泳ぎ）	上記に準ずる	7
	10月後半～12月	Ⅳ期 【スポーツⅠ】 採点競技 測定競技	《1年》 【スポーツⅠ】 ・陸上競技（100m走・ハードル走）	上記に準ずる	7

3 学 期	1 ～ 3 月	V 期 【スポーツⅠ】 採点競技 測定競技	《1 年》 【スポーツⅠ】 ・陸上競技（持久走）	上記に準ずる	8
-------------	------------------	--------------------------------	--------------------------------	--------	---

7 学習者へのメッセージなど

スポーツ演習やスポーツ概論で学んだことを生かし、1 学年では基礎、2 学年では応用、3 学年では競技運営について学びます。自分の得意な種目、好きな種目を見付け卒業後も継続して実践及び競技運営等に関わることができるようになろう。

令和7年度 年間授業計画

科目(講座名)	専門実技 スポーツⅡ	1単位	必修	学年	1年
使用教科書 補助教材 その他	教科書 大修館(保体702) 新高等保健体育 大修館 基礎から学ぶスポーツ概論	教科担当			

1 学習の目標

体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、主体的、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、健やかな心身の育成に資するとともに、生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与する資質・能力を育成することを目指す。

2 授業内容

【スポーツⅠ】・採点競技への多様な関わり方 体操競技 組体操 実技発表会に向けての練習
・測定競技への多様な関わり方 陸上競技 水泳 遠泳に向けての練習

3 学習方法

予習 演習や概論で学んだことや教科書「新高等保健体育」「スポーツ概論」を参考に、採点競技や測定競技で活用できるようにする。また、課題に適した練習方法を考える。
復習 考えた練習を取り入れ、運動観察やゲームなどを通して学習の成果を確認する。
課題 練習中の技能や戦術を観察・分析し課題発見に努める。その課題の解決に向けて思考・判断し次の目標に適した具体的な戦術や課題を設定する。

4 学習到達目標と「観点別学習状況の評価」の評価規準

【知識及び技能】
運動の主体的、合理的、計画的な実践に関する具体的な事項やスポーツの推進及び発展に寄与するための事項について理解しているとともに、生涯を通じたスポーツの推進及び発展に必要な技能を身に付けている。
【思考力、判断力、表現力等】
スポーツの多様な実践を推進及び発展についての自他や社会の課題を発見し、主体的、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。
【主体的に学習に取り組む態度】
生涯を通してスポーツと多様に関わるとともにスポーツの推進及び発展に寄与することができるよう、運動の主体的、合理的、計画的な実践に主体的に取り組もうとしている。

5 年間予定授業時間

予定時間数	35時間	1学期(13時間)	2学期(14時間)	3学期(8時間)
-------	------	-----------	-----------	----------

6 授業計画

期	月	学習内容	学習内容	学習到達目標	時数
1学期	4・5月	I期 【スポーツⅠ】 採点競技 測定競技	《1年》 【スポーツⅠ】 ・体操(マット運動・組体操)	【スポーツⅠ】 ・採点競技及び測定競技の推進及び発展に向けた多様な関わり方を理解するとともに、技能を身に付けている。 ・採点競技及び測定競技における自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに他者に伝	6

	6・7月	Ⅱ期 【スポーツⅠ】 採点競技 測定競技	《1年》 【スポーツⅠ】 ・水泳（遠泳練習）	えることができる。 ・採点競技及び測定競技の学習に主体的に取り組むとともに、公正、協力、責任、参画、共生などに対する意欲を高め健康・安全を確保して、生涯通してスポーツを継続するとともにスポーツの推進及び発展に寄与する態度を身に付けている。	7
2学期	8月末～10月前半	Ⅲ期 【スポーツⅠ】 採点競技 測定競技	《1年・2年・3年》 【スポーツⅠ】 ・体操（組体操・実技発表会）	上記に準ずる	7
	10月後半～12月	Ⅳ期 【スポーツⅠ】 採点競技 測定競技	《1年》 【スポーツⅠ】 ・陸上競技（中学4種） ・	上記に準ずる	7

3 学 期	1 ～ 3 月	V 期 【スポーツⅠ】 採点競技 測定競技	《1 年》 【スポーツⅠ】 ・陸上競技 (中学 4 種・持久走)	上記に準ずる	8
-------------	------------------	--------------------------------	--	--------	---

7 学習者へのメッセージなど

スポーツ演習やスポーツ概論で学んだことを生かし、1 学年では基礎、2 学年では応用、3 学年では競技運営について学びます。自分の得意な種目、好きな種目を見付け卒業後も継続して実践及び競技運営等に関わることができるようになろう。

令和7年度 年間授業計画

科目(講座名)	専門実技 スポーツⅢ・Ⅳ	1単位	必修	学年	1年
使用教科書 補助教材 その他	教科書 大修館(保体702) 新高等保健体育 大修館 基礎から学ぶスポーツ概論	教科担当			

1 学習の目標

体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、主体的、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、健やかな心身の育成に資するとともに、生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与する資質・能力を育成することを目指す。

2 授業内容

【スポーツⅠ】・採点競技への多様な関わり方 体操競技 組体操 実技発表会に向けての練習
・測定競技への多様な関わり方 陸上競技 水泳 遠泳に向けての練習

3 学習方法

予習 演習や概論で学んだことや教科書「新高等保健体育」「スポーツ概論」を参考に、採点競技や測定競技で活用できるようにする。また、課題に適した練習方法を考える。
復習 考えた練習を取り入れ、運動観察やゲームなどを通して学習の成果を確認する。
課題 練習中の技能や戦術を観察・分析し課題発見に努める。その課題の解決に向けて思考・判断し次の目標に適した具体的な戦術や課題を設定する。

4 学習到達目標と「観点別学習状況の評価」の評価規準

【知識及び技能】
運動の主体的、合理的、計画的な実践に関する具体的な事項やスポーツの推進及び発展に寄与するための事項について理解しているとともに、生涯を通じたスポーツの推進及び発展に必要な技能を身に付けている。
【思考力、判断力、表現力等】
スポーツの多様な実践を推進及び発展についての自他や社会の課題を発見し、主体的、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。
【主体的に学習に取り組む態度】
生涯を通してスポーツと多様に関わるとともにスポーツの推進及び発展に寄与することができるよう、運動の主体的、合理的、計画的な実践に主体的に取り組もうとしている。

5 年間予定授業時間

予定時間数	35時間	1学期(13時間)	2学期(14時間)	3学期(8時間)
-------	------	-----------	-----------	----------

6 授業計画

期	月	学習内容	学習内容	学習到達目標	時数
1学期	4・5月	I期 【スポーツⅠ】 採点競技 測定競技	《1年》 【スポーツⅠ】 ・体操(マット運動・組体操)	【スポーツⅠ】 ・採点競技及び測定競技の推進及び発展に向けた多様な関わり方を理解するとともに、技能を身に付けている。 ・採点競技及び測定競技における自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに他者に伝	6

	6・7月	Ⅱ期 【スポーツⅠ】 採点競技 測定競技	《1年》 【スポーツⅠ】 ・水泳（遠泳練習）	えることができる。 ・採点競技及び測定競技の学習に主体的に取り組むとともに、公正、協力、責任、参画、共生などに対する意欲を高め健康・安全を確保して、生涯通してスポーツを継続するとともにスポーツの推進及び発展に寄与する態度を身に付けている。	7
2学期	8月末～10月前半	Ⅲ期 【スポーツⅠ】 採点競技 測定競技	《1年・2年・3年》 【スポーツⅠ】 ・体操（組体操・実技発表会）	上記に準ずる	7
	10月後半～12月	Ⅳ期 【スポーツⅠ】 採点競技 測定競技	《1年》 【スポーツⅠ】 ・陸上競技（中学4種） ・	上記に準ずる	7

3 学 期	1 ～ 3 月	V 期 【スポーツⅠ】 採点競技 測定競技	《1 年》 【スポーツⅠ】 ・陸上競技(中学4種・持久走)	上記に準ずる	8
-------------	------------------	--------------------------------	-------------------------------------	--------	---

7 学習者へのメッセージなど

スポーツ演習やスポーツ概論で学んだことを生かし、1 学年では基礎、2 学年では応用、3 学年では競技運営について学びます。自分の得意な種目、好きな種目を見付け卒業後も継続して実践及び競技運営等に関わることができるようなろう。

令和7年度 年間授業計画

科目(講座名)	専門実技 スポーツⅥ	1単位	必修	学年	1年
使用教科書 補助教材 その他	教科書 大修館(保体702) 新高等保健体育 大修館 基礎から学ぶスポーツ概論	教科担当			

1 学習の目標

体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、主体的、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、健やかな心身の育成に資するとともに、生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与する資質・能力を育成することを目指す。

2 授業内容

【スポーツⅠ】・採点競技への多様な関わり方 体操競技 組体操 実技発表会に向けての練習
・測定競技への多様な関わり方 陸上競技 水泳 遠泳に向けての練習

3 学習方法

予習 演習や概論で学んだことや教科書「新高等保健体育」「スポーツ概論」を参考に、採点競技や測定競技で活用できるようにする。また、課題に適した練習方法を考える。
復習 考えた練習を取り入れ、運動観察やゲームなどを通して学習の成果を確認する。
課題 練習中の技能や戦術を観察・分析し課題発見に努める。その課題の解決に向けて思考・判断し次の目標に適した具体的な戦術や課題を設定する。

4 学習到達目標と「観点別学習状況の評価」の評価規準

【知識及び技能】
運動の主体的、合理的、計画的な実践に関する具体的な事項やスポーツの推進及び発展に寄与するための事項について理解しているとともに、生涯を通じたスポーツの推進及び発展に必要な技能を身に付けている。
【思考力、判断力、表現力等】
スポーツの多様な実践を推進及び発展についての自他や社会の課題を発見し、主体的、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。
【主体的に学習に取り組む態度】
生涯を通してスポーツと多様に関わるとともにスポーツの推進及び発展に寄与することができるよう、運動の主体的、合理的、計画的な実践に主体的に取り組もうとしている。

5 年間予定授業時間

予定時間数	35時間	1学期(13時間)	2学期(14時間)	3学期(8時間)
-------	------	-----------	-----------	----------

6 授業計画

期	月	学習内容	学習内容	学習到達目標	時数
1学期	4・5月	I期 【スポーツⅠ】 採点競技 測定競技	《1年》 【スポーツⅠ】 ・体操(マット運動・組体操)	【スポーツⅠ】 ・採点競技及び測定競技の推進及び発展に向けた多様な関わり方を理解するとともに、技能を身に付けている。 ・採点競技及び測定競技における自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに他者に伝	6

	6・7月	Ⅱ期 【スポーツⅠ】 採点競技 測定競技	《1年》 【スポーツⅠ】 ・水泳（遠泳練習）	えることができる。 ・採点競技及び測定競技の学習に主体的に取り組むとともに、公正、協力、責任、参画、共生などに対する意欲を高め健康・安全を確保して、生涯通してスポーツを継続するとともにスポーツの推進及び発展に寄与する態度を身に付けている。	7
2学期	8月末～10月前半	Ⅲ期 【スポーツⅠ】 採点競技 測定競技	《1年・2年・3年》 【スポーツⅠ】 ・体操（組体操・実技発表会）	上記に準ずる	7
	10月後半～12月	Ⅳ期 【スポーツⅠ】 採点競技 測定競技	《1年》 【スポーツⅠ】 ・陸上競技（中学4種） ・	上記に準ずる	7

3 学 期	1 ～ 3 月	V 期 【スポーツⅠ】 採点競技 測定競技	《1 年》 【スポーツⅠ】 ・陸上競技(中学4種・持久走)	上記に準ずる	8
-------------	------------------	--------------------------------	-------------------------------------	--------	---

7 学習者へのメッセージなど

スポーツ演習やスポーツ概論で学んだことを生かし、1 学年では基礎、2 学年では応用、3 学年では競技運営について学びます。自分の得意な種目、好きな種目を見付け卒業後も継続して実践及び競技運営等に関わることができるようになろう。

令和7年度 年間授業計画

科目(講座名)	専攻実技	2単位	必履修	学年	1～3年
使用教科書 補助教材 その他	教科書 大修館(保体702)新高等保健体育	教科担当			

1 学習の目標

専門種目としてより高度な技術および専門知識を習得する。心身ともに健全な人間形成を図る。それぞれの種目において、指導者としての立場に立てる人材の育成を図り、社会へ出てから、十分に役立てられるよう学ぶ。

2 授業内容

9つの専攻競技(陸上競技、サッカー、体操競技、水泳競技、柔道、剣道、バレーボール、バスケットボール)に分かれ、練習方法やトレーニング理論、戦術などを仲間と探求し、実際にプレーをしながら高度な技術および専門知識を習得する。

3 学習方法

予習 自らの課題やチームの課題を分析し、仮説(問い)を立てる。課題の解決方法や練習方法を考える。
復習 学んだことをそれぞれの部活動や大会等で発揮し、新たな仮説(問い)を作る。
課題 効果的なトレーニング方法や練習方法、戦術を研究し、発表する。

4 学習到達目標と「観点別学習状況の評価」の評価規準

【知識・技能】

スポーツの多様な意義やスポーツの推進及び発展の仕方について理解し、スポーツの推進及び発展に必要な知識・技能を発揮できる。

【思考力・判断力・表現力等】

スポーツの推進及び発展に必要な自他や社会の課題を発見し、思考・判断するとともに、他者と適切にコミュニケーションを取り協同することができる。

【主体的に学習に取り組む態度】

生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与するための学習に主体的に取り組むことができる。

5 年間予定授業時間

予定時間数	70時間	1学期(26時間)	2学期(28時間)	3学期(16時間)
-------	------	-----------	-----------	-----------

6 授業計画

期	月	学習内容	学習内容	学習到達目標	時数
1 学期		サッカー・バスケットボール・バレーボール、陸上競技、体操競技、水泳、剣道、柔道	- 各専攻種目における技術向上のための基礎・基本動作の習得、トレーニングの実施。 - 練習試合や、競技会の実施	勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高めてゲームが展開できる。 ゴール型では、状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの連携した動きによって空間への侵入などから攻防を展開できる。 ネット型では、状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防を展開できる。	26
2 学期	9 10	ダンス 体操競技	駒場高校の伝統である実技発表会に向け、ダンスや体操の専門的スキルを身につける。	実技発表会のために技術、体力を身につけるとともに、安全へ配慮することができる。 他者の演技を認め合い、発表会を楽しむことができる。	28
	11 12	サッカー・バスケットボール・バレーボール、陸上競技、体操競技、水泳、剣道、柔道	- 各専攻種目における技術向上のための基礎・基本動作の習得、トレーニングの実施。 - 練習試合や、競技会の実施	勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高めてゲームが展開できる。 ゴール型では、状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの連携した動きによって空間への侵入などから攻防を展開できる。 ネット型では、状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防を展開できる。	
3 学期		サッカー・バスケットボール・バレーボール、陸上競技、体操競技、水泳、剣道、柔道	上記に準ずる	上記に準ずる	16

7 学習者へのメッセージなど

専攻実技は保健体育科ならではの科目です。それぞれの専攻で専門的な技術や練習方法を学び、所属する専攻競技の専門家としてのスキルを身につけていきましょう。そして、専門家として自らの専攻種目の魅力ややりがいを「する」「見る」「支える」「知る」の観点から、周りの人々に伝えていける指導者を目指しましょう。

令和7年度 年間授業計画

科目(講座名)	芸術Ⅰ (音楽Ⅰ)	2単位	必履修	学年	1年
使用教科書 補助教材 その他	教科書 高校生の音楽1 教育芸術社 音Ⅰ702	教科担当			

1 学習の目標

芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

2 授業内容

音楽活動における歌唱・器楽・創作の基本を学習するとともに、音楽芸術の鑑賞や演奏活動をすることにより、生涯を通じて自ら音楽芸術を愛好していくことできる感性と、自発的な創造性を養うための学習活動をする。

3 学習方法

予習 楽曲が創作された背景を学ぶ。
復習 楽譜の譜読みや楽曲の構成と曲想におけるポイントを把握する。
課題 ソルフェージュの各要素を理解し自らの力で読譜できるようにする。

4 学習到達目標と「観点別学習状況の評価」の評価規準

【知識・技能】
 楽曲の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。楽典やソルフェージュの各要素を理解し、自らの力で譜読みをし、演奏・創作することができるようになる。

【思考力・判断力・表現力等】
 楽曲の演奏や創作、鑑賞において、音楽の持つ要素を的確に把握し、それらを具体的に思考しながら演奏や創作活動に生かすことができる。

【主体的に学習に取り組む態度】
 演奏・創作・鑑賞のそれぞれの活動を通じて感性を高め、音楽芸術作品における音楽表現のあり方を自ら追求していくことができる。

5 年間予定授業時間

予定時間数	70時間	1学期 (26時間)	2学期 (28時間)	3学期 (16時間)
-------	------	------------	------------	------------

6 授業計画

期	月	学習内容	学習内容	学習到達目標	時数
1 学期	4	・呼吸法と発声 ・Caro mio ben	・ベルカント唱法の基本を学ぶ。 ・呼吸法と発声の基本を踏まえて歌唱する。	・唱法の基本を理解している。 ・呼吸と発声の基本の上において歌唱しようとしている。	6
	5	・O sole mio ・リズムソルフェージュ	・ベルカント唱法を意識しながら歌唱する。 ・全音符から 16 分音符までのリズム読み	・唱法の基本を意識しながら歌唱できている。 ・リズムを的確に把握し、読める。	8
	6	・Nessun dorma ・リズムソルフェージュ	・発想用語、イタリア語の発音を理解し、豊かな発声で歌う。 ・付点音符とシンコペーションのリズム読み	・曲想、イタリア語の発音を理解しながら歌唱できている。 ・リズムを的確に把握し、読める。	8
	7	・Ombra mai fu ・リズムスコアリーディング	・ベルカント唱法とイタリア歌曲の発音を生かして歌唱する。 ・組み合わせたリズムのスコアリーディングをする。	・唱法とイタリア歌曲の発音を生かして歌唱できている。 ・組み合わせたリズムのスコアリーディングができている。	4
2 学期	9	・オーシャンゼリゼ ・楽典（3度音程）	・フランス語の持つ発音を生かし、コード進行を感じながら歌唱する。 ・楽典の3度音程（長、短、減、増）を作れるようにする。	・フランス語を生かし、コード進行を感じながら歌唱できているか。 ・五線紙上で、3度音程を作ることができる。	8
	10	・翼をください ・トライド（三和音）の作り方	・中間部のコード進行を感じながら歌唱する。 ・三和音の構造を理解し、どの根音からでも作れるようにする。	・中間部のコード進行を感じながら歌唱できているか。 ・五線紙上で、三和音を作ることができる。	8
	11	・クラッピンガ・カルテット第1番 ・セブンスコードの作り方	・楽譜を読んでリズムや強弱を理解し、手拍子で演奏する。 ・セブンスコードの構造を理解し、どの根音からでも作れるようにする。	・楽譜を読んでリズムや強弱を理解し演奏する技能が身に付けている。 ・五線紙上で、セブンスコードを作ることができる。	8
	12	・カノン進行と歌唱曲コード進行の分析	・「オーシャンゼリゼ」と「翼をください」の歌唱曲のコード分析をしてカノン進行のコード分析をする。	・歌唱曲を例にコード進行を分析しカノン進行の構造を理解できる。	4
3 学期	1	・混声四部合唱曲（校歌と選択曲） ・カノン進行による創作	・校歌の主旋律以外の声部を歌唱し、混声四部曲として他のもう1曲とともに混声四部合唱をする。 ・8小節のカノン進行による楽曲を創作する。	・校歌の主旋律以外の声部が歌唱できる。 ・カノン進行による楽曲をコード進行を理解し、8小節の旋律を自ら創作できる。	6
	2	・混声四部合唱曲（校歌と選択曲） ・カノン進行による創作	・校歌を含む2曲の混声四部合唱する。 ・カノン進行による楽曲を3部形式で創作する。	・校歌の混声四部合唱の演奏ができる。 ・カノン進行による楽曲を3部形式で創作することができる。	6
	3	・混声四部合唱曲（校歌と選択曲） ・カノン進行による創作	・混声四部合唱の演奏発表を行う。 ・カノン進行による3部形式の楽曲を創作し、オリジナル楽曲作品として提出する。	・校歌及び選択曲の混声四部合唱が発表できる。 ・カノン進行による3部形式の楽曲をオリジナル作品として創作できる。	4

7 学習者へのメッセージなど

演奏・音楽理論・ソルフェージュ・創作活動を横断的に結びつけた活動です。それぞれのオリジナル楽曲作品の創作提出に向けて、自らの発想を大切に、意欲的に取り組んでください。

令和7年度 年間授業計画

科目(講座名)	芸術 I (美術 I)	2 単位	必履修	学年	1 年
使用教科書 補助教材 その他	教科書 光村図書 美 I 701	教科担当			

1 学習の目標

芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

2 授業内容

線や点で描く。
生命感をあらわす。
柵や点で構成された作品の造形的なよさや美しさを感じ取る。

3 学習方法

予習 制作に必要な道具を準備しておく。
復習 参考作品や教科書からの作品と比較し、次の展開材料にする。
課題 常に制作のプロセスを考え、円滑にイメージを形に出来る

4 学習到達目標と「観点別学習状況の評価」の評価規準

【知識・技能】
芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。
【思考力・判断力・表現力等】
創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。
【主体的に学習に取り組む態度】
生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

5 年間予定授業時間

予定時間数	70 時間	1 学期 (26 時間)	2 学期 (28 時間)	3 学期 (16 時間)
-------	-------	--------------	--------------	--------------

6 授業計画

期	月	学習内容	学習内容	学習到達目標	時数
1 学期	4	線や点で描く	形や色が感情にもたらす効果や、造形的な特徴をもとに、柵や点で構成された作品を、全体のイメージや作風、様式で捉えることを理解させる。	形や色が感情にもたらす効果や、造形的な特徴をもとに、柵や点で構成された作品を、全体のイメージや作風、様式、形で捉えることを理解している。	14
	5				
	6	線や点で描く	形や色が感情にもたらす効果や、造形的な特徴をもとに、柵や点で構成された作品を、全体のイメージや作風、様式で捉えることを理解させる。	柵や点で構成された作品の造形的なよさや美しさを感じ取るとともに、日本美術と西洋美術とを比較し、それぞれの創造的な表現の工夫について考え、見方や感じ方を深めている。	12
	7				
2 学期	9	生命感をあらわす	形や色、材料、光が感情にもたらす効果や、量感や質感、動勢の造形的な特徴をもとに、生命感をあらわした身近な人や動物の彫刻を、全体のイメージや作風で捉えることを理解させる。	形や色、材料、光が感情にもたらす効果や、量感や質感、動勢の造形的な特徴をもとに、生命感をあらわした身近な人や動物の彫刻を、全体のイメージや作風や形で捉えることを理解している。	14
	10				
	11	生命感をあらわす	形や色、材料、光が感情にもたらす効果や、量感や質感、動勢の造形的な特徴をもとに、生命感をあらわした身近な人や動物の彫刻を、全体のイメージや作風で捉えることを理解させる。	人や動物を見つめて感じ取った生命感をあらわした彫刻の造形的な生命感から主題を生成し、材料よさや美しさを感じ取り、作者の心情の特性を生かし、質感や量感、動勢や意図と創造的な表現の工夫について考え、創造的な表現について考え、見方や感じ方を深め構想を練っている。	14
	12				
3 学期	1	柵や点で構成された作品の造形的なよさや美しさを感じ取る。	主体的に包むものや使用目的について考え、形や色構造を工夫してパッケージをデザインする表現の創造活動に取り組ませる。	主体的に包むものや使用目的について考え、形や色、構造を工夫してパッケージをデザインする表現の創造活動に取り組もうとしている。	16
	2				
	3				

7 学習者へのメッセージなど

常に思慮深く自分の作品と向かい合い、より良い作品創作を目指して取り組んでください。

令和7年度 年間授業計画

科目(講座名)	芸術Ⅰ(書道Ⅰ)	2単位	必履修	学年	1年
使用教科書 補助教材 その他	教科書 書道Ⅰ(教育図書)書Ⅰ702	教科担当			

1 学習の目標

芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

2 授業内容

書道における基本を学習するとともに、古典作品の臨書から作品の制作を目標とし、学習する。

3 学習方法

予習
復習 各作品学習の際に、ワークシートにおいて確認し、理解させる。
課題 各時間ごとに注意点などを理解し、作品の臨書をさせ提出する。

4 学習到達目標と「観点別学習状況の評価」の評価規準

【知識・技能】
書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。
【思考力・判断力・表現力等】
書の良さや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。
【主体的に学習に取り組む態度】
主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

5 年間予定授業時間

予定時間数	70時間	1学期(26時間)	2学期(28時間)	3学期(16時間)
-------	------	-----------	-----------	-----------

6 授業計画

期	月	学習内容	学習内容	学習到達目標	時数
1 学期	4	書写から書道へ	・小・中学校国語科書写と高校書道の学習の違いを理解する。 ・国語科書写で学習した内容（筆使い・字形など）を確認する。	芸術科書道で学習することを理解している。・小・中学校国語科書写で学習した内容を理解している。	6
	5	漢字の書楷書	・書道の三分野（漢字の書・仮名の書・漢字仮名交じりの書）と、臨書・鑑賞・創作という学習方法があることを理解する。	臨書を通して唐の四大家の楷書作品の字形や線質・点画の特徴を理解し、それを表現するための用筆・運筆の技法を理解している。	8
	6	漢字の書楷書	・楷書の用筆、運筆、結構や字形の取り方について理解し、技法を習得する。 ・古典を臨書する意義について理解する。	鑑賞を通して唐の四大家の楷書作品の書風とそれを形成する表現の要素を理解し、臨書に生かしている。	8
	7	漢字の書楷書	・唐の四大家の楷書作品の臨書から書風違いを理解し、技法を習得する。	唐の四大家の楷書作品に関心を持ち、その美を味わおうとしている。	4
2 学期	9	漢字の書行書	・行書の用筆・運筆の技を理解し、習得する。 ・書道史における書聖・王羲之と「蘭亭序」について理解する。	臨書を通して「蘭亭序」の線質や点画の特徴を理解し、それを表現するための用筆・運筆の技法を理解している。	8
	10	漢字の書行書	・筆脈と抑揚を意識して「蘭亭序」を臨書する。	「蘭亭序」の書風とそれを形成する表現の要素を理解し、臨書に生かしている。	8
	11	漢字の書草書・隸書	・草書の成立過程や通行書体としての性質を確認する。 ・隸書の成立過程や公式書体としての性質を確認する。	草書・隸書の古典の書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。	8
	12	漢字仮名交じりの書	・漢字仮名交じりの書の特徴を理解する。	漢字仮名交じりの書の創作に関心を持ち、主体的に取り組んでいる。	4
3 学期	1	仮名の書	・仮名の基本的な用筆・運筆を理解し、習得する。 ・平仮名・変体仮名について理解する。	平仮名の字形や線質、変体仮名の多様性を理解し、臨書に生かしている。	6
	2	仮名の書	・「蓬萊切」「高野切第三種」を鑑賞し、典型的な仮名の美を感じ取る。	「蓬萊切」「高野切第三種」の臨書を通して、平仮名・変体仮名の字形や線質、連綿の法則を理解し、それを表現するための用筆・運筆の技法を理解している。	6
	3	仮名の書	・「高野切第三種」の伸びやかな用筆・運筆を意識して臨書する。	「高野切第三種」の臨書を通して、平仮名・変体仮名の字形や線質、連綿の法則を理解し、表現する。	4

7 学習者へのメッセージなど

各書体の特徴を理解し、それぞれの単元において作品創作への意欲を持って授業に臨んでください。

令和7年度 年間授業計画

科目(講座名)	英語コミュニケーション I	3 単位	必修	学年	1 年
使用教科書 補助教材 その他	[通常の授業で使用] ・検定教科書 ELEMENT (啓林館) ・Element Workbook Advanced (啓林館) ・英単語ターゲット 1200&1900 改訂版 (旺文社) ・英文速読ドリル 10 minutes Level 1&2 (Z 会) ・Cutting Edge Green 大学入試長文読解問題集 (エミル出版) ・スタディサプリ ENGLISH 英語 4 技能コース (リクルート)	教科担当			

1 学習の目標

英語による4技能の言語活動を通して、情報や考えを的確に理解し、表現する能力を育成する。目的や場面、状況などに応じて適切に知識を活用できる技能を身につけられるようにする。主体的、自律的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

2 授業内容

英単語集『Target1200(1900)』の小テストを週 1 回程度で実施し、英単語・熟語の定着を図り、検定教科書『ELEMENT』や補助教材『Cutting Edge』を読んで、現代の多様かつグローバルな問題について知識を獲得し、理解していくと共に、大学入試問題に対応出来る基礎的読解力を身に付ける。
 また、速読教材『英文速読ドリル』(週 1～2 レッスン)を使用し、短い時間に一定の量の長文を読んで、情報を整理しながら把握する速読力を身に付ける。
 更に、教材に付属の音声を活用した多様な音読練習を行い、リスニング力も強化する。

3 学習方法

【予習】
 新出単語・熟語を調べ、本文の内容や文構造を把握するなどの予習を行った上で授業に参加する。

【復習】
 授業内容を定着させるために、教科書本文の精読に加えて、英語音声を活用した音読練習（オーバーラッピングやシャドーイングなど）を行う。また、定期考査後の振り返りノートに「計画・テスト・分析・練習」という自己改善のサイクルを回す勉強法と組み合わせることで、生徒一人一人が自分なりの学び方を探究し、学力を向上させる機会とする。

【課題】
 教科書に沿ったワークブックを併用することで、内容の理解の深化と、知識の定着を図る。また類似の入試問題を解答することで、大学入試問題に早い段階でなれさせていく。英語 4 技能の検定試験の対策として、スタディサプリ English を朝学習などで課題として出す。

4 学習到達目標と「観点別学習状況の評価」の評価規準

【聞くこと】
 日常的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、ある程度の支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、概要や要点を目的に応じて捉えることができるようにする。

【読むこと】
 日常のおよび社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、ある程度の支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができるようにする。

【話すこと(やりとり)】
 日常のおよび社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、ある程度の支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考えなどを論理的に話して伝え合うことができるようにする。

【話すこと(発表)】
 日常のおよび社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、ある程度の支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを論理的に話して伝えることができるようにする。

【書くこと】

日常のおよび社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、ある程度の支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを複数の段落から成る文章で論理的に書いて伝えることができるようにする。

【知識・技能】

4技能5領域において言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、実際のコミュニケーションにおいて活用できる知識・技能を身に付けている。外国語の学習を通じて、言語の働きや役割などを理解している。

【思考力・判断力・表現力等】

コミュニケーションを行う場面や目的、状況などに応じて、日常的な話題から時事問題や社会問題まで幅広い話題について、情報や考えなどを外国語で的確に理解したり適切に伝え合ったりしている。聞いたり読んだりしたことなどを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現している。

【主体的に学習に取り組む態度】

外国語の背景にある文化に対する理解を深め、話し手などに配慮しながら、外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現しようとしている。言語やその背景にある文化に対する関心を持って、自律的、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

5 年間

予定授業時間

予定時間数	105 時間	1 学期（39 時間）	2 学期（42 時間）	3 学期（24 時間）
-------	--------	-------------	-------------	-------------

6 授業計画

期	月	学習内容	学習内容	学習到達目標	時数
1 学期	4 月 5 月	ELEMENT 〔L1-2〕 Target 1200 〔1-250〕 英文速読ドリル Level 1〔1-6〕 スタディサプリ English ELEMENT 〔L3-4〕 Target 1200 〔251-519〕	・ELEMENT L1 Intercultural Relationships 「シドモアが抱き続けた夢」 「日米友好の桜の秘話」 L2 Love beyond Species 「ライオンと人間の絆」 「200 万人が見た感動の実話」 ・英文速読ドリル 1. The Ant and the Grasshopper 2. The Peach Boy 3. The Great Barrier Reef 4. The London Underground 5. Hirotada Ototake 6. Brazil ・スタディサプリ English 「英語 4 技能コース・ディラーレッスンについて(ガイダンス動画)」の視聴 ・ELEMENT L3 Contributing to Our Planet 「子どもでも世界を変えられる」 「バリ島姉妹の奮闘記」 L4 Messages for World Peace 「広島・長崎の二重被爆者」 「山口さんの平和への思い」	【聞くこと】 日常の・社会的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、ある程度の支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、概要や要点を目的に応じて捉えることができるようにする。 【読むこと】 日常のおよび社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、ある程度の支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができるようにする。 【話すこと(やりとり)】 日常のおよび社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、ある程度の支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考えなどを論理的に話して伝え合うことができるようにする。 【話すこと(発表)】 日常のおよび社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、ある程度の支援を活用す	39

	6 7	英文速読ドリル Level 1〔7-12〕 スタディサブリ English 〔週 2 のデイリー レッスン〕	・英文速読ドリル Level 1 7. Checking into a Hotel 8. Printing and American Democracy 9. Rebuilding Warsaw 10. Why Note Taking is important 11. Michizane Sugawara: Scholar, Poet and Governor 12. Global Warming ・スタディサブリ English 週 2 のデイリーレッスンのペース(分量指定)で配信される課題に取り組む。	れば、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを論理的に話して伝えることができるようにする。 【書くこと】 日常のおよび社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、ある程度の支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを複数の段落から成る文章で論理的に書いて伝えることができるようにする。	
2 学 期	8 9 10	ELEMENT 〔L5-6〕 Target 1200 〔611-1225〕 英文速読ドリル Level 1〔13-18〕 スタディサブリ English 〔週 2 のデイリー レッスン〕 ELEMENT 〔L7-8〕 Target 1200 〔1226-1565〕 英文速読ドリル Level 1〔19-24〕 スタディサブリ English 〔週 2 のデイリー レッスン〕	・ELEMENT L5 Respecting Each Other 「世紀の誤審」 「過ちを許す優しさの物語」 ・英文速読ドリル Level 1 13. Rebuilding Warsaw 14. Rebuilding Warsaw 15. Why Note Taking is important 16. Hadrian's Wall 17. My Pet 18. Hiking and Camping ・スタディサブリ English 週 2 のデイリーレッスンのペース(分量指定)で配信される課題に取り組む。 ・ELEMENT L7 Technology and Discoveries 「私たちの生活を支えるセレンディビティー」 L8 Standing Up for Human Rights 「南アフリカの歴史を変えたマンデラとラグビー」 ・英文速読ドリル Level 1 19. Traveling through Europe by Train 20. The Advantages and Disadvantages of the Internet 21. Jane Austen 22. America's Space Shuttle Program 23. An American Wedding 24. Using Air Conditioning ・スタディサブリ English 週 2 のデイリーレッスンのペース(分量指定)で配信される課題に取り組む。	【聞くこと】 日常的・社会的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、ある程度の支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、概要や要点を目的に応じて捉えることができるようにする。 【読むこと】 日常のおよび社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、ある程度の支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができるようにする。 【話すこと(やりとり)】 日常のおよび社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、ある程度の支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考えなどを論理的に話して伝え合うことができるようにする。 【話すこと(発表)】 日常のおよび社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、ある程度の支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを論理的に話して伝えることができるようにする。 【書くこと】 日常のおよび社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、ある程度の支援を活用す	42

	11 12			れば、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを複数の段落から成る文章で論理的に書いて伝えることができるようにする。	
3 学 期	1 2 3	Cutting Edge 〔Chapter 1-5〕 Target 1200 〔1566-1700〕 Target 1900 〔1-159〕 英文速読ドリル Level 1〔25〕 英文速読ドリル Level 2〔1-5〕 スタディサプリ English 〔週 2 のデイリー レッスン〕	Chapter 1 「食事と CO₂」 Chapter 2 「必要水分量」 Chapter 3 「英語の変換」 Chapter 4 「トランスヒューマン」 Chapter 5 「絶滅危惧種の選定」 ・英文速読ドリル Level 1 25. The Golden Calf ・英文速読ドリル Level 2 1. Europe's Most Interesting Country 2. Nara 3. Celebrating Christmas in New York 4. Tombs in Kyongju, South Korea 5. Irish Food	【聞くこと】 日常的・社会的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、ある程度の支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、概要や要点を目的に応じて捉えることができるようにする。 【読むこと】 日常のおよび社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、ある程度の支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができるようにする。 【話すこと(やりとり)】 日常のおよび社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、ある程度の支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考えなどを論理的に話して伝え合うことができるようにする。 【話すこと(発表)】 日常のおよび社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、ある程度の支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを論理的に話して伝えることができるようにする。 【書くこと】 日常のおよび社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、ある程度の支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを複数の段落から成る文章で論理的に書いて伝えることができるようにする。	24

7 学習者へのメッセージなど

予習、授業、復習というサイクルを大切に学習を継続しましょう。

授業を学習の真ん中に据え、家で準備をすること、授業でするクラスメイトとともに出来ることを明確に提示し、input(at home)→output(in class) →workbook で定着というサイクルを早い段階で習慣化しましょう。本文をきちんと定着させる(英文貯金)、ターゲットや教科書の新出単語を自分のものにする(単語貯金)を1年生のうちから意識すること。

令和7年度 年間授業計画

科目(講座名)	論理・表現Ⅰ	3単位	学校必履修	学年	1年
使用教科書 補 助 教 材 そ の 他	教科書 Vision Quest English Expression I Advanced (啓林館) 補助教材使用教科書 副教材等 ブレイクスルー総合英語・ブレイクスルー英文法36章・基本例文ノート(美誠社) ブレイクスルー・プラクティカル・ステージ(美誠社)・ブレイクスルーワークブック(美誠社) リスニングラボラトリーBasic β、Standard α(数研出版)	教科担当			

1 学習の目標

英語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。基本的な文法事項を学び、他者の英語を聞き、理解したうえで、自分の考えを効果的に伝える能力を養う。

2 授業内容

導入：①Listening Laboratory②基本例文ミニテスト③Vision Quest: Expressing
展開：①1コマ1Lessonのペースで進める。②ALTとの授業(LL教室で実施)では各学期に実施されるスピーキングテストに向けて、導入～練習～テストのサイクルで進めていく。③オンライン英会話の授業(LL教室で実施)では、各自が個別に海外の講師との英会話に取り組む。

3 学習方法

予習 各レッスンのExercisesの解答をノートに書いてくる。
復習 授業で確認し、誤答について見直しまとめる。
課題 オンライン英文添削「スマートコレクション」に配信毎に必ず取り組む。
基本例文ノートおよびワークブックの解答に取り組み、考査時に提出する。
Listening Laboratoryディクテーションノートに自主的に取り組む。

4 学習到達目標と「観点別学習状況の評価」の評価規準

【知識・技能】

基本的な文法事項の運用力を身に付ける

【思考力・判断力・表現力等】

効果的に自分の意見などを表現することができる

【主体的に学習に取り組む態度】

積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度が身に付いている

以上を日々の授業、ミニテスト、定期考査、発表活動などを通して総合的に評価する。

5 年間予定授業時間

予定時間数	時間	1学期 (39 時間)	2学期 (42 時間)	3学期 (24 時間)
-------	----	--------------	--------------	--------------

6 授業計画

期	月	学習内容	学習内容	学習到達目標	時数
1 学期	4 ～ 5月	Breakthrough Lessons 01-06 Vision Quest 1-2 Listening Laboratory Basic β Lessons 1-6 Show & Tell	① 文の種類・文型・疑問文・基本時制・進行形 ② 聞き手を意識して用意した内容をスピーチする ③オンライン英会話	① 文の種類・文型・疑問文・基本時制・進行形の知識・技能を習得し、日本語→英語への書き換えを適切にできるようになる。 ② 聞き手を意識して用意した内容をスピーチできるようになる。 ③オンライン英会話の設定とアセスメントテストを完了する。	17
	5 ～ 7月	Breakthrough Lessons 07-14 Vision Quest 3-4 Listening Laboratory Basic β Lessons 7-13 Speaking Test I	② 完了形・助動詞・受動態・不定詞(1) ② 与えられたテーマに基づきリサーチを行い、論理的にまとめた内容を相手が聞き取りやすい英語で発表する。 ③オンライン添削型英文ライティング ④オンライン英会話	① 完了形・助動詞・受動態・不定詞(1)の知識・技能を習得し、日本語→英語への書き換えを適切にできるようになる。 ② グループプレゼンテーションで、ある程度まとめた内容を論理的に英語で発表できる。 ③オンライン添削型英文ライティングに遅滞なく取り組む。 ④オンライン英会話に欠かさず取り組む。	22
2 学期	8 ～ 10月	Breakthrough Lessons 15-22 Vision Quest 5-7 Listening Laboratory Basic β Lessons 14-20 Presentation	① 不定詞・動名詞・分詞 ② 与えられたテーマに基づきリサーチを行い、論理的にまとめた内容を相手が聞き取りやすい英語で発表する。 ③ オンライン添削型英文ライティング ④ オンライン英会話	① 不定詞・動名詞・分詞の知識・技能を習得し、日本語→英語への書き換えを適切にできるようになる。 ② グループプレゼンテーションで、ある程度まとめた内容を論理的に英語で発表できる。 ③ オンライン添削型英文ライティングに遅滞なく取り組む。 ④ オンライン英会話に欠かさず取り組む。	20
	1 0 ～ 12月	Breakthrough Lessons 23-29 Vision Quest 8-9 Listening Laboratory Standard α Lessons 1-12 Speaking Test (GTEC 準拠)	② 関係詞・比較 ② ディベートを作る。 ③ オンライン添削型英文ライティング ④ オンライン英会話	① 関係詞・比較の知識・技能を習得し、日本語→英語への書き換えを適切にできるようになる。 ② ディベートを行う上で必要な要素を学習し、ディベートに参加できる。 ③ オンライン添削型英文ライティングに遅滞なく取り組む。 ④ オンライン英会話に欠かさず取り組む。	22

3 学 期	1 ～ 3 月	Breakthrough Lessons 30-36 Additional 9-10 / Vision Quest 10-12 Listening Laboratory Standard α Lesson 13-20	① 仮定法・否定・話法・様々な構文 ② 日本文化を紹介するプレゼンテーション(「話すこと」発表)を練習する ③ オンライン添削型英文ライティング ④ オンライン英会話	① 仮定法・否定・話法・様々な構文を習得し、日本語→英語への書き換えを適切にできるようになる。 ② 日本文化を紹介するプレゼンテーション(「話すこと」発表)をし、CEFRA2～B1 レベルをクリアする。 ③ オンライン添削型英文ライティングに遅滞なく取り組む。 ④ オンライン英会話に欠かさず取り組む。	24
-------------	------------------	--	--	--	----

7 学習者へのメッセージなど

英語力の基礎は語彙と文法。論理表現 I ではまず基礎を固め(知識・技能)、そのうえでアウトプット(思考力・判断力・表現力)をできる限り意図通りにできるようになるよう、日々積み重ねていきましょう。学習の積み重ねの成果は必ず表れます。それが次のステップへの原動力(主体的に学習に取り組む態度)になるのです。

令和7年度 年間授業計画

科目(講座名)	情報 I	2 単位	必修	学年	1 年
使用教科書 補助教材 その他	教科書 情報 I StepForward! 東京書籍(情 I /702) 補助教材 東京書籍 情報 I StepForward! 学習ノート 実教出版 ベストフィット情報 I	教科担当			

1 学習の目標

効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについて理解を深めるようにする。様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。

2 授業内容

中学校技術・家庭科技術分野の内容「D 情報の技術」との系統性を持ち、情報社会、情報デザイン、プログラミング、情報通信ネットワークについて問題解決の視点を持ちながら学習を進める。
予習の知識を前提に、授業では実習や演習を中心に扱う。

3 学習方法

予習 Microsoft Teams にアップロードされた予習動画を閲覧して、情報 I StepForward! 学習ノートの A. ポイント整理の語句について予習を行う。
復習 Microsoft Teams にアップロードされた正答例を閲覧して、情報 I StepForward! 学習ノートの B. 問題演習について行う。また、ベストフィット情報 I を利用して、類題の演習を行う。
課題 1 人一台端末(iPad)を利用して、プログラミングや情報デザインなどの内容に合わせた演習課題を行う。

4 学習到達目標と「観点別学習状況の評価」の評価規準

【知識・技能】

効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについて理解している。

【思考力・判断力・表現力等】

様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用できる。

【主体的に学習に取り組む態度】

情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画しようとしている。

5 年間予定授業時間

予定時間数	70 時間	1 学期 (26 時間)	2 学期 (28 時間)	3 学期 (16 時間)
-------	-------	--------------	--------------	--------------

6 授業計画

期	月	学習内容	学習内容	学習到達目標	時数
1 学期	4	オリエンテーション	- 情報Ⅰオリエンテーション 1人一台端末(iPad)の初期設定	科目「情報Ⅰ」での学びに見通しを持ち、端末の初期設定を通じて情報活用の基礎力を身につけることができる。	3
	5	第1章『情報社会』	- 情報とメディア - 問題解決 - 知的財産 - 個人情報 - 情報セキュリティ - 情報モラル - 情報技術	情報とメディアにおける表現、知的財産の保護、情報技術の活用など、情報社会を取り巻く要因について理解し、分析することができる。	10
	6				
	7	第2章『情報デザイン』(前半)	- コミュニケーションとメディア - 情報のデジタル化 - 数値の表現 - 文字・音・画像のデジタル表現 - データの圧縮 - デジタルデータの特徴	数値の表現をはじめ、文字・音・画像などそれぞれの表現におけるメディアについて、コンピュータにおいて表現される方法について理解し、自ら表現することができる。	12
2 学期	8	第2章『情報デザイン』(後半)	- メディアと文化の発展 - 情報デザイン - 全ての人に伝わるデザイン - コンテンツ設計	身近なコンテンツの表現方法を分析し、ユニバーサルデザインの観点からコンテンツ制作を行うことができる。	6
	9	第3章『プログラミング』	- コンピュータの構成 - ソフトウェア - 処理の仕組み - 論理回路	ハードウェアおよびソフトウェアにおけるコンピュータの仕組みについて理解し、コンピュータ内部の計算について考えを深めることができる。	8
	10		- アルゴリズムの表現・効率性 - プログラミングの仕組み - プログラミング(入門・応用)	代表的なアルゴリズムについて、比較を行いながら、それぞれの特徴について理解し、アルゴリズムを活用してプログラミングを行うことができる。	8
	11				
	12		- 問題のモデル化 - シミュレーション	モデルの意義や例について理解し、問題解決の過程を通じて、問題をモデル化する方法について考え、シミュレーションを行うことができる。	5
3 学期	1	第4章『ネットワークの活用』	- 情報通信ネットワーク - デジタル通信の仕組み - インターネットの利用 - 安全安心をつくる仕組み	情報通信ネットワークの技術を具体的なネットワークの構成から理解し、実社会で実現するための方法について考察することができる。	7
	2				
	3		- 情報システム - データの活用とデータベース - データの管理・収集と種類・分析	現代社会で利用され、発展している情報システムについて調査し、利用されているデータについて分析を行うことができる。	8
			2つのデータの関係		

7 学習者へのメッセージなど

現在は教科「情報」に関わる技術や仕組みは情報化が急速に進展し、情報通信技術（ICT）が私たちの生活のなかでより身近なものになっている時代です。日々のニュースや社会の動きと、それを繋げる情報通信技術の活躍における「情報」の結びつきを意識しながら、学習に臨みましょう。

令和7年度 年間授業計画

科目(講座名)	総合的な探究の時間	1 単位	必履修	学年	1 年
使用教科書 補助教材 その他	「人間としての在り方生き方に関する教科 『人間と社会』改訂版教科書」(東京都教育委 員会) その他、その都度教材を用意	教科担当			

1 学習の目標

一生「探究」し続けるマインドを育てる

2 授業内容

「駒場の探究」から「探究の駒場へ」

3 学習方法

- ・駒場高校 120 年の歴史を学び、フィールドワークをおこなう
- ・日本一の学都・駒場について学び、フィールドワークをおこなう。
- ・2 年生で完成させる「コマバ探 Q 論文」の自己の探究テーマについて「探究」する。

4 学習到達目標と「観点別学習状況の評価」の評価規準

【知識・技能】 「駒場高校の歴史」や「駒場地区の沿革・現状」について調べる能力をつける

【思考力・判断力・表現力等】 グループでフィールドワークのまとめを作成する。

【主体的に学習に取り組む態度】 授業の中で主体的・対話的な知識獲得に意欲的に取り組んでいるか。

5 年間予定授業時間

予定時間数	35 時間	1 学期 (13 時間)	2 学期 (14 時間)	3 学期 (8 時間)
-------	-------	--------------	--------------	-------------

6 授業計画

期	月	学習内容	学習内容	学習到達目標	時数
1 学期	4	「探究」とは何か	「探究オリエンテーション」 【演習】序章 2章 学ぶことの意義	「探究とは何か」について知る	2
	5	駒場高校の歴史の探究	【体験活動】 「駒場ー六本木フィールドワーク」 【演習】13章 地域社会を築く 「進路講演会」	「駒場高校120年の歴史」について探究する。 進路についての意識を高める	6 3
	6	駒場地区の探究	【体験活動】 「駒場地区フィールドワーク」 【演習】13章 地域社会を築く	「学都駒場」について探究する。	2 3
	7	キャリア探究	コンセンサスワークショップ 【演習】1章 人間関係を築く 7章 選択し、行動する 4章 役割と責任 19章 主権者の権利と責任	集団での意思決定について知る。	2 4
2 学期	9	探究論文作成	「コマバ探Q論文」作成 【演習】12章 支え合う社会 防災講話	「論文の書き方」について学ぶ 防災についての意識を高める	1 2 1
	10	探究論文作成	「コマバ探Q論文」作成 オリエンテーション	「テーマの探し方」について学ぶ	4
	11	探究論文作成	「コマバ探Q論文」作成 オリエンテーション	自分の仮テーマについていくつか候補を出す	4
	12	探究論文作成	【体験活動】 東京英語村 【演習】16章 文化の多様性	英語圏の文化について疑似体験する。	6 3
3 学期	1	探究論文作成	「コマバ探Q論文」作成 オリエンテーション	自分の仮テーマについていったん提出	2
	2	探究論文作成	「コマバ探Q論文」作成 【演習】8章 チームを動かす力	お互いの仮テーマについて対話的に批評する。	3
	3	探究論文作成	「コマバ探Q論文」作成 【演習】 人間と社会～これからの生き方～	お互いの仮テーマについて対話的に批評する。	3

7 学習者へのメッセージなど

「探究の駒場」と言われるような高いレベルの「探究」をめざしましょう。